

環境対応型 2成分反応形アクリルゴム屋根塗膜防水工法

建築物等の施工技術及び保全技術・建設技術審査証明書

BCJ-審査証明-55



アロコート®SQ

東亜合成株式会社

アクリルゴム技術が、日本の屋根を変える。 東亜合成のアロンコート®SQは、 次代をひらく屋根塗膜防水工法です。

雨と風、夏には厳しい日ざし、冬には霜や雪。そして豊かな自然が生む、動物や植物のいのちの営み。そうした変化に富む日本の四季が、古来より建物の防水技術を鍛えてきました。

そしていま、東亜合成の新しい技術が、日本の屋根の防水を大きく変えはじめています。

アロンコートSQは、水系の“2成分反応形アクリルゴム”を防水層とする、屋根塗膜防水工法です。

軽量、複雑な納まりへの対応、シームレス等といった従来の塗膜防水の特長に加え、かけがえのない環境に配慮し、耐久性と信頼性が高い、屋上防水を実現しました。

新築、改築の際には、多くの課題を解決するアロンコートSQを、ぜひご検討ください。

Ecology
エコロジー志向

**Heat
Shielding**
遮熱性能

Almighty
幅広い適用性

アロンコートSQ
6つの特長

**High
Quality**
高品質

Long Life
長寿命

**Light
Weight**
軽い防水層



瞬間接着剤「アロンアルファ」の東亜合成が開発したアロンコートSQは、その優れたひび割れ追従性・耐久性により塗膜防水の信頼性を飛躍的に向上させました。

INDEX

日本の屋根を変える	2
特長：エコロジー志向	4
特長：幅広い適用性	6
特長：長寿命・軽い防水層	8
特長：高品質	9
特長：遮熱性能	10
工法選定	12
仕上塗料の適合性一覧表	14
下地調整とプライマーの選定	15
各種工法の工程	16
施工例	24
施工/施工手順例	28
技術データ	30
納まり	31
注意事項	34
使用材料一覧	36
アロンコートSQ施工後の維持管理	38
全アロン防水組合	39



できるかぎり廃棄物を少なく、有害
地球環境を大切に考える技術が、



な臭いや煙もすべて解消。 ベースにあります。

臭気や煙が発生しない、水系の防水材です。

アロンコートSQは、カチオン性アクリルゴムエマルジョン「アロンコートSQベース」と無機質硬化剤「アロンコートSQセッター」からなる無溶剤で水系の防水材です。
水系材料のためVOC(揮発性有機溶剤)を大気中に放出しません。
また、火気を使うこともなく、いやな臭いや黒煙の発生ありません。
さらに、施工時の騒音・振動ありません。

産業廃棄物の少ないエコ容器も採用。

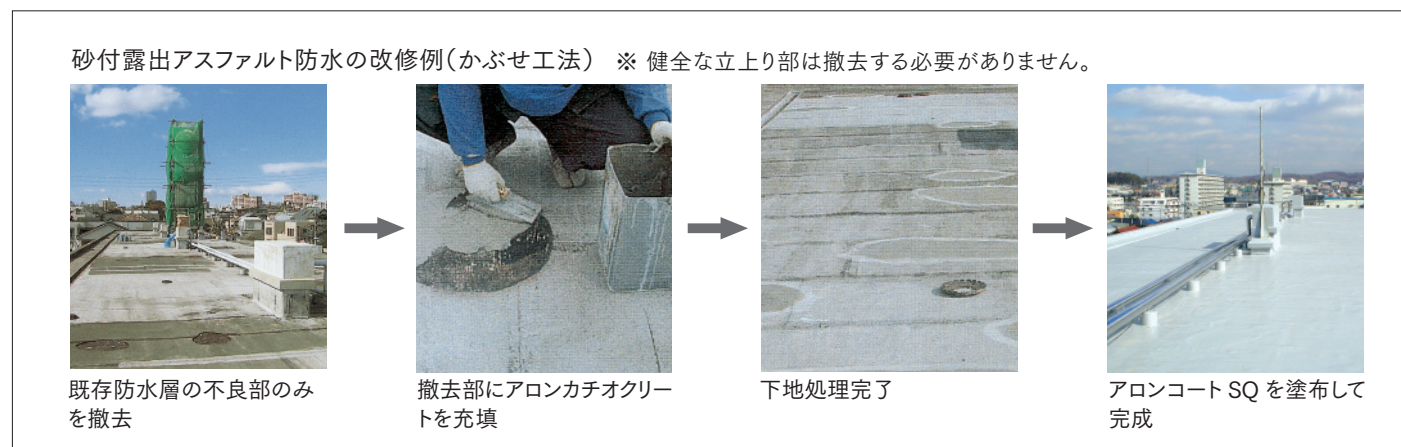
アロンコートSQベースは、リサイクル率の高い段ボール容器を用い、産業廃棄物を低減しました。

- ①アロンコートSQベースは、 段ボール容器と注入口付きポリ内袋の二重梱包です。
 - ②使用後は、段ボール容器からポリ内袋を外し、段ボール容器はリサイクルが可能です。
- ※ ご注文の際には段ボール容器とご指定ください。



廃棄物の少ない防水工法です。

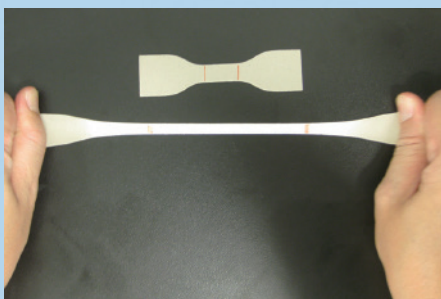
アロンコートSQは、改修時の既存防水層の撤去を最小限にでき、工期の短縮や工事費の削減も実現できます。



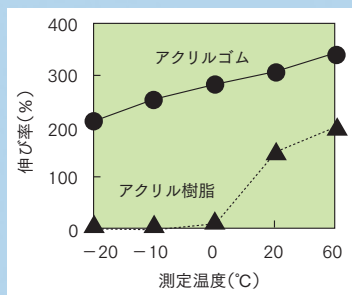


新築も改修も。屋根の形状を問わ まさに、オールマイティな塗膜防水

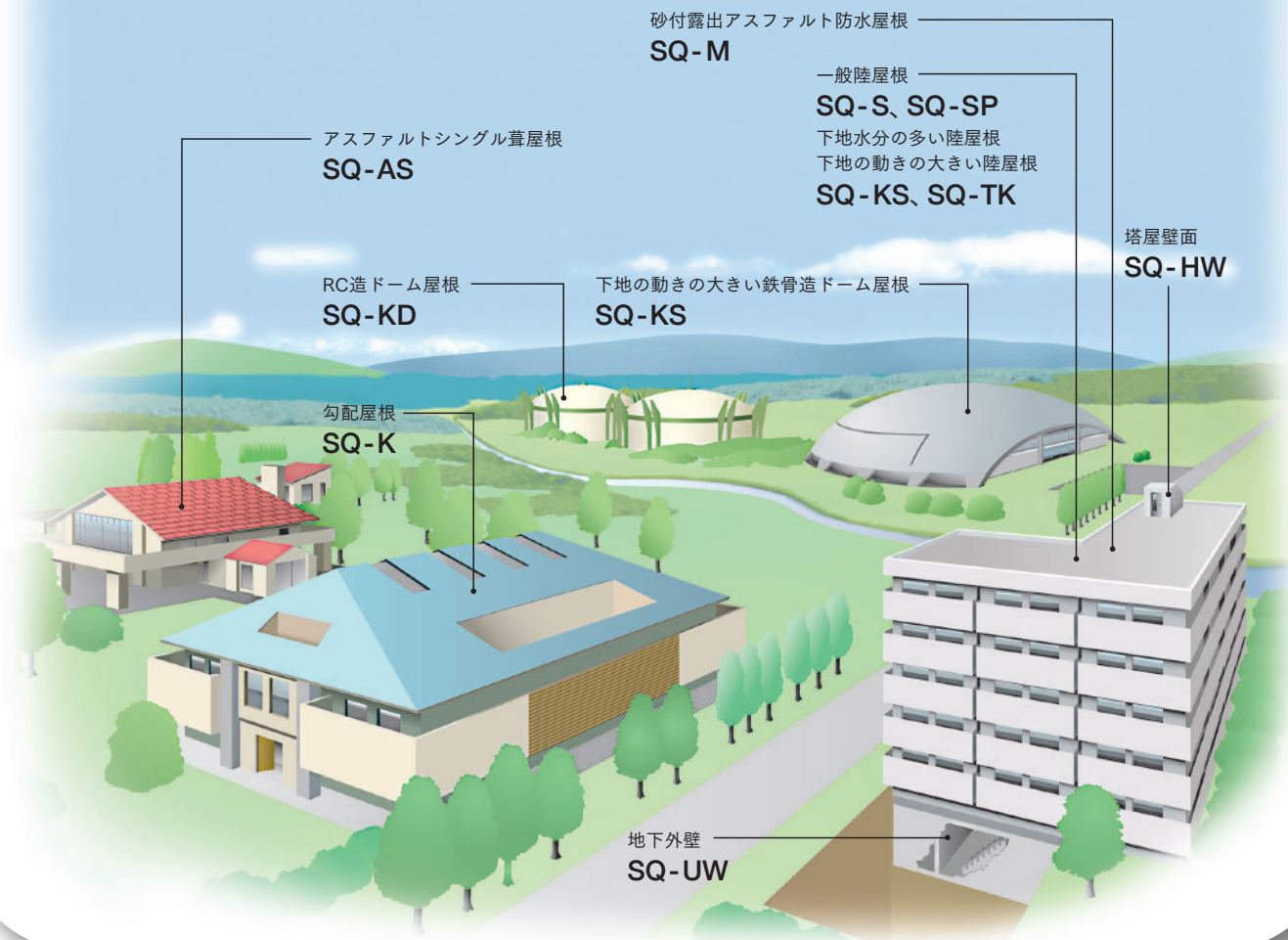
アロンコートSQのアクリルゴムは、
経年や低温時の弾性低下がきわめて少ない、
優れた屋上防水材です。



弾性の低下が少ない



低温でも伸びる



ず、複雑な部位もカンタン施工。
工法です。

勾配屋根やドーム屋根など、さまざまな形状の屋根に適用できます。



既存防水層を撤去せずに改修する「かぶせ工法」に適しています。

- ①さまざまな既存防水層に適用できます。工法選定(p.12～15)をご参照ください。
- ②砂付露出アスファルト防水の改修には、コストパフォーマンスの高い密着工法でおまかせください。

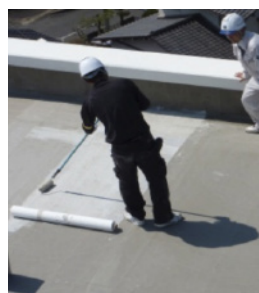
砂付露出アスファルト防水の改修例[SQ-M]



下地処理後



アロン水性プライマー塗布後
アロンコートSQ-M用調整材を塗布



アロンメッシュ+
アロンコートSQ塗布

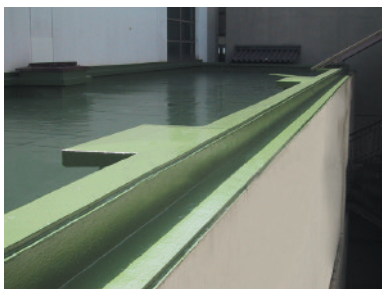


完成

アロンコートSQなら、施工しにくい部位でも対応できます。

複雑な納まりや形状でも、継ぎ目なく簡単に施工できます。端末金物を用いることなく確実な防水ができます。

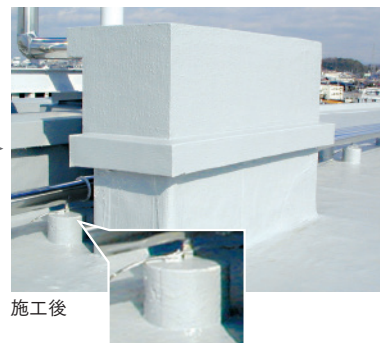
パラベットの施工例



立上り面や複雑な形状への施工例



施工前



施工後

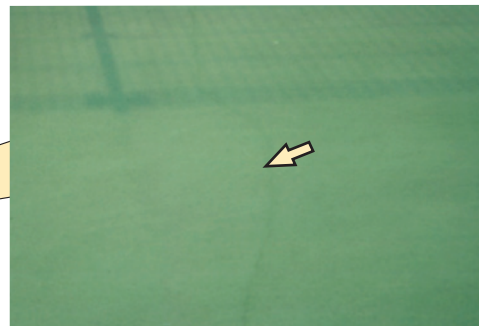


長持ちする点も大きなメリット。
部分補修もカンタンです。

アロンコートSQは抜群の耐久性を誇り、10年以上経っても防水層はほとんど劣化しません。そのためアロンSQリフレッシュ工法で塗り重ねを行うと防水機能が復元し、建物のメンテナンスサイクルコストを大きく削減することが可能です。



SQ-S工法(防滑仕上) 施工後、10年経過後の状況



下地コンクリートにひび割れが発生しているが
SQ塗膜に破断は認められない。

万一の不具合にも、安心。アロンコートSQは不具合箇所が容易に発見でき、簡単に部分補修が行えます。



SQ-S 部分補修の状況



SQ-S 施工後、16年経過後の状況



防水層が軽いので、
建物に荷重負荷をかけません。

アロンコートSQは、一般的な下地処理を含めても約5kg/m²以下で、建物への荷重負荷を最小限にします。



品質の管理、向上、研究に たゆまず努力しています。

アロンコートSQに使用する材料の、品質管理は万全です。

当社工場ではISO9001/14001の認証を取得済み。環境に配慮しつつ、原料から製品化まで一貫生産体制を敷いています。

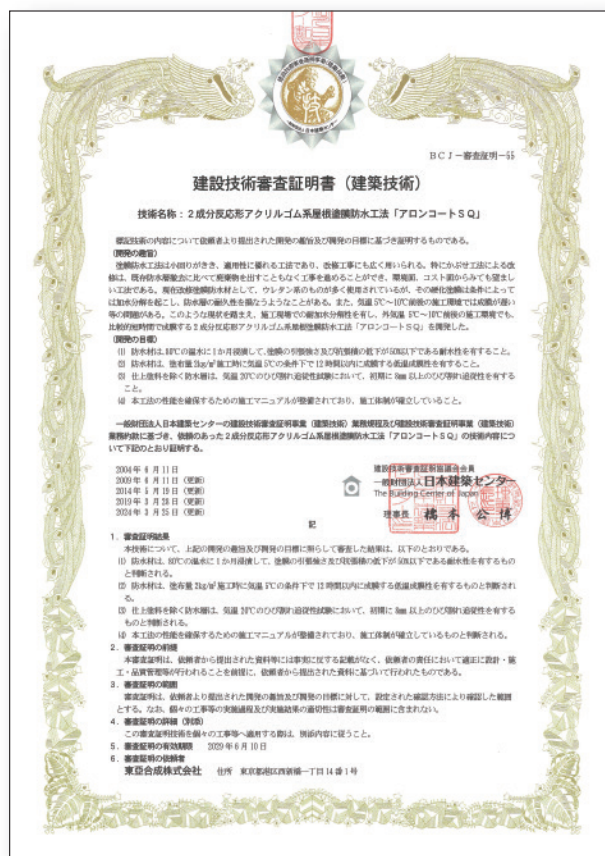
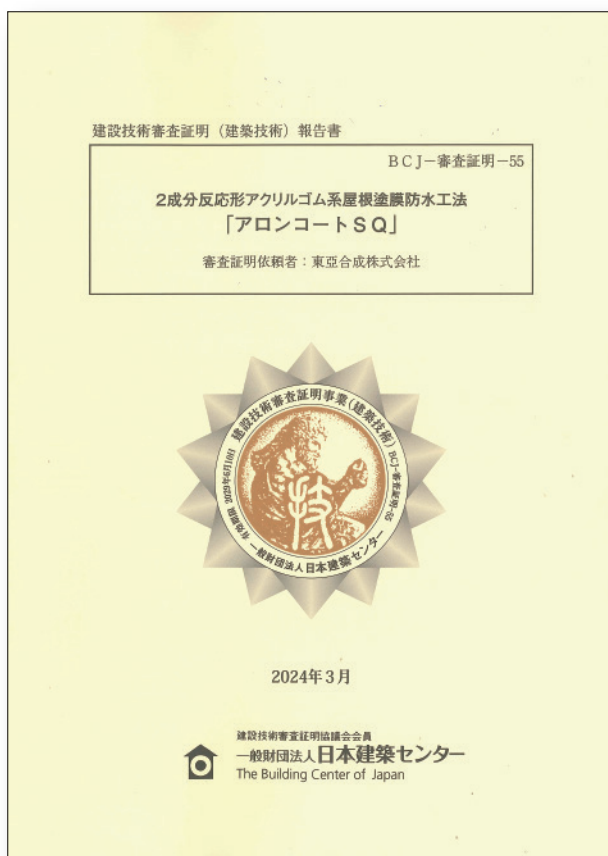
信頼の責任施工・アフターサービスです。

アロンコートSQは、高度な施工技術を修得した全国200以上の専門施工業者で組織された「全国アロンコート・アロンウオール防水工事業協同組合」の組合員が、責任をもって施工します。 ※協同組合の概要は、p.39をご参照ください。

「建設技術審査証明」を取得しています。

アロンコートSQは、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書」に記載されている、ウレタン系塗膜防水材料「X-1」「X-2」に類しています。

*1



*1 建設技術審査証明は、民間における研究開発の促進及び新技術の建設事業への適正かつ迅速な導入を図り、建設技術の向上に寄与しようとする目的で実施されています。



高耐候性・高日射反射率塗料とア
遮熱と防水を同時に実現します。



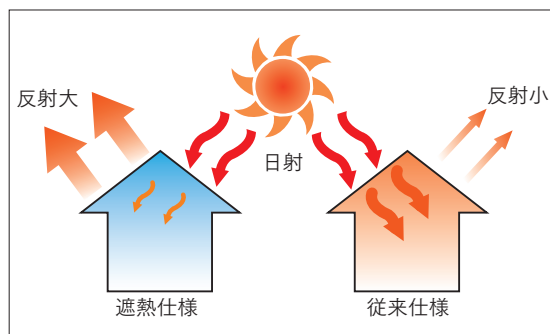
クリルゴムの組み合わせが、

優れた遮熱性能により、屋内への熱の侵入を抑制します。

遮熱性の高い特殊顔料を採用したアロン水性クールカラーRUとアロンMDクールカラーSiを使用した遮熱仕様により、近赤外線を効率よく反射し、屋根の温度上昇、さらには屋内への熱の侵入を抑制します。これにより、室内の温度上昇を防止します。また、熱による防水層の劣化を軽減します。

建物の長寿命化に貢献します。

遮熱性能による省エネ(地球環境の保護)や住環境の改善に加え、水分、塩化物などの劣化因子の遮断性、耐久性と信頼性の高いアクリルゴムが、建物を長持ちさせます。



標準色の日射反射率

●アロン水性クールカラーRUの測定値

アロン水性クールカラーRU(遮熱調色品)					日射反射率に関する公的規格										
標準色の種類	日射反射率(%)		明度 (L*値)												
	全波長域	近赤外波長域													
	ブラウン	22.5	42.1	29	【JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)】 <table><tr><th>明度(L*値)</th><th>波長域</th><th>日射反射率</th></tr><tr><td>L*≤ 40.0</td><td rowspan="3">近赤外</td><td>40.0%以上</td></tr><tr><td>40.0 < L* < 80.0</td><td>明度以上</td></tr><tr><td>80.0 ≤ L*</td><td>80.0%以上</td></tr></table> ※本JISは防水用には適用されません。	明度(L*値)	波長域	日射反射率	L*≤ 40.0	近赤外	40.0%以上	40.0 < L* < 80.0	明度以上	80.0 ≤ L*	80.0%以上
明度(L*値)	波長域	日射反射率													
L*≤ 40.0	近赤外	40.0%以上													
40.0 < L* < 80.0		明度以上													
80.0 ≤ L*		80.0%以上													
	ダークブルー	23.2	43.3	30											
	ダークグレー	23.1	44.0	29											
	チョコレート	25.5	46.6	32											
	ブリックレッド	29.2	41.9	40											
	グリーン	25.6	44.7	41	【KRK S-001(高反射率防水シート)】 <table><tr><th>明度(L*値)</th><th>波長域</th><th>日射反射率</th></tr><tr><td>規定なし</td><td>近赤外</td><td>50.0%以上</td></tr></table>	明度(L*値)	波長域	日射反射率	規定なし	近赤外	50.0%以上				
明度(L*値)	波長域	日射反射率													
規定なし	近赤外	50.0%以上													
	グレー	39.6	62.3	53											
	ライトグレー	43.6	65.2	58											
	アプリコット	56.1	69.3	68											
	ホワイต์	87.4	85.3	92											

●アロンMDクールカラーSiの測定値

アロンMDクールカラーSi(遮熱調色品)					日射反射率に関する公的規格						
標準色の種類	日射反射率(%)		明度(L*値)								
	全波長域	近赤外波長域									
	ブラウン	23.7	44.3	18.9	【JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)】						
	ダークブルー	24.5	45.5	20.1							
	ダークグレー	25.8	46.7	25.4							
	チョコレート	27.0	47.9	26.2							
	ブリックレッド	36.0	56.2	34.0							
	グリーン	26.4	47.0	35.3							
	グレー	40.9	60.2	53.4	※本JISは防水用には適用されません。						
	ライトグレー	44.6	62.9	58.7							
	アプリコット	58.3	73.0	69.0							
	ホワイト	88.7	88.4	96.0							
					【KRK S-001(高反射率防水シート)】						
					<table><tr><th>明度(L*値)</th><th>波長域</th><th>日射反射率</th></tr><tr><td>規定なし</td><td>近赤外</td><td>50.0%以上</td></tr></table>	明度(L*値)	波長域	日射反射率	規定なし	近赤外	50.0%以上
明度(L*値)	波長域	日射反射率									
規定なし	近赤外	50.0%以上									

※JIS K 5675に規定する日射反射率を満足しています。

※日射反射率は、色により異なります。また、下地の状態、施工条件により異なる場合があります。

工法選定

改修

部位	既存防水	既存防水の処理		適用工法	工法名	標準 仕上げ	防滑 仕上げ	耐摩耗 仕上げ	対応仕様 (改仕*7)	技術審査 証明	
		保護層	防水層								
陸屋根・バルコニー	保護アスファルト防水 保護アスファルト断熱防水	残す	残す	露出	密着	SQ-S 工法*1*2	○	○	○	X-2	○*8
					通気緩衝	SQ-KS 工法*2*3	○	○		X-1	○
		通気緩衝			SQ-TK 工法*2*3	○	○	○	X-1	○*8	
		密着			SQ-S 工法	○	○	○	X-2	○*8	
	砂付露出アスファルト防水	—	残す	露出	密着	SQ-M 工法*4*5	○	○	○		
	合成高分子ルーフィングシート防水・塗膜防水	—	残す	露出	密着	SQ-S 工法	○	○	○	X-2	○*8
陸屋根	砂付露出アスファルト防水	残す		露出	密着	SQ-S 工法*9	○	○	○	X-2	○*8
パラペット天端・立上り・庇	ウレタン防水	残す	残す	露出	密着	SQ-SP 工法*6	○				
勾配屋根 ドーム屋根	砂付露出アスファルト防水	残す		露出	密着	SQ-K 工法	○				
						SQ-M 工法*4*5	○				
	高分子ルーフィング防水・塗膜防水	残す		露出	密着	SQ-K 工法	○				
勾配屋根	アスファルトシングル葺屋根	残す		露出	密着	SQ-AS 工法	○				
勾配屋根	スレート瓦葺屋根	残す		露出	密着	SQ-RS 工法	○				

陸屋根	アロンコート SQ	残す	露出	密着	SQ-RA工法	○	○	○		
勾配屋根	アロンコート SQ			密着	SQ-RK工法	○				

*1:保護層を残す場合は、目地処理(通気目地、消目地処理)を行い、アロン強化プライマー 0.5kg/m²を2回に分けて塗布してください。 *2:脱気筒を設置してください。(100～150m²に1箇所)
*3:SQ-S工法その他、パラペット天端・底にはSQ-SP工法を適用できます。 *4:既存防水層の仕上がシルバー仕上ではなく、カラー塗装の場合はアロン水性プライマーの工程を省略できます。
*5:既存防水が砂付露出断熱、アスファルト防水の場合は、仕上塗料の褪色が早まる場合があります。
*6:底においては、アロンメッシュなしとします。ただし切付部分に漏水リスクがある場合は、切付部分のみをアロンメッシュによる補強布張りをしてください。
*7:改仕:公共建築改修工事標準仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修:令和4年度) *8:SQ-F配合及び耐摩耗仕上は技術審査証明には対応していません。
*9:下地処理として、全面にカチオニークリーをにごきぬります。

新築

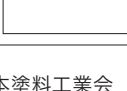
適用部位	適用工法		工法名		適用下地	対応仕様 (標仕*1)	技術審査 証明	仕上げの種類		
								標準仕上げ	防滑仕上げ	耐摩耗仕上げ
陸屋根・バルコニー	露出	密着	SQ-S工法	露出密着工法	RC PCa ALC*3	X-2	○*2	○	○	○
陸屋根・バルコニー		通気	SQ-KS工法*4*5	露出通気緩衝工法	RC PCa ALC	X-1	○	○	○	
勾配屋根・ドーム屋根		緩衝	SQ-TK工法*4*5*6	露出通気緩衝工法	RC PCa ALC	X-1	○*2	○	○	○
勾配屋根	露出	密着	SQ-K工法	勾配屋根露出密着工法	RC PCa ALC*3			○		
陸屋根	保護	密着	SQ-HD工法	保護密着工法	RC			—	—	—
ドーム屋根	露出	密着	SQ-KD工法	RC造ドーム屋根露出密着工法	RC			○		
小屋根	露出	密着	SQ-RP工法	小屋根露出密着工法	RC			○	○	
塔屋壁面	露出	密着	SQ-HW工法*7	塔屋壁面露出密着工法	RC PCa ALC			○		
地下外壁	保護	密着	SQ-UW工法*8	地下外壁密着工法	RC			—		

注)RCは現場打ち鉄筋コンクリート、PCaはプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCはALCパネルをあらわします。

- *1:公共建築改修工事標準仕様書(国土交通省大臣官房官庁管理繕部監修:令和4年度)
- *2:SQ-F配合及び耐摩耗仕上は技術審査証明には対応していません。
- *3:下地がRC、ALCの場合は、別途処理として目地部にアロンゴムシートテープ張りが必要となります。
- *4:下地がPCaで下地水分が多い場合には、脱気筒を設置してください。(100~150m²に1箇所)
- *5:立上り部は、SQ-S工法を適用してください。
- *6:形状によって適用できない場合がありますので、詳細はお問い合わせください。
- *7:下地がPCa、ALCの場合は、パネルの継手目地にはノンブリード型シーリング材が打設されている必要があります。
- *8:SQ-UW施工後に防水層の損傷防止を目的とした絶縁材による保護をしてください。

仕上塗料の色見本

○:対応可能 ×:対応できません △:条件により対応可能

色の種類 [日本塗料工業会塗料用標準色No.]※1		アロン水性RU		アロン水性 クールカラーRU		アロンFTS		アロンMD ルーフカラーSi		アロンMD クールカラーSi	
		標準色	特注色※3	標準色	特注色※3	標準色	特注色※3	標準色	特注色※3	標準色	特注色※3
グリーン [P30-40L]		○		○		○		○		○	
グレー [PN-55]		○		○		○		○		○	
ライトグレー [PN-60]			○	○			○	○		○	
ダークグレー [PN-30]			○	○			○	○		○	
アプリコット [P12-70L]			○	○			○	○		○	
ダークブルー [P65-20H]			○	○			○		○	○	
ブリックレッド [P09-30L]			○	○			○	○		○	
ブラウン [P09-20B]			○	○			○	○		○	
チョコレート [P05-30D]			○	○			○	○		○	
ホワイト [PN-95]			○	○			○	○		○	
上記以外の日本塗料工業会 塗料用標準色の※2調色対応		×	△※4	×	×	×	×	×	△※4	×	×
艶の程度		艶消し		艶消し		艶消し		半艶消し※5		艶あり※6	
機能・特徴		水系		水系・遮熱		水系・防滑		弱溶剤		弱溶剤・遮熱	

※1:日本塗料工業会カラー塗料用標準色に対する近似色・類似色であり、どの色に近いかを示しています。詳細は屋根用標準色カラーカードでご確認ください。

※2:最新版の日本塗料工業会塗料用標準色となります。

※3:色の種類によって価格が異なりますので、詳細はお問い合わせください。

※4:特注色として一部の色で調色対応が可能です。詳細はお問い合わせください。

※5:指定が無ければ「半艶消し」となりますが、「艶あり」も可能です。ご希望の場合は「艶あり」と明記してください。

※6:遮熱効果の高い「艶あり」を標準としています。半艶消しも可能です。ご希望の場合は「半艶消し」と明記してください。

仕上塗料の適合性一覧表

仕上塗料		推奨適用部位 (標準:◎ 対応可:○)		標準使用量(ローラー塗布時)		艶(標準:◎ 対応可:○)			調 色 (対応可:○)
種 類	名 称	陸屋根	勾配屋根+壁面	陸屋根	勾配屋根	艶消し	半艶	艶あり	
標準仕上げ*1	アロン水性RU	◎	◎	①0.2kg/m ² *2	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	◎	—	—	○
	アロン水性クールカラー-RU	◎	◎	①0.2kg/m ² *2	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	◎	—	—	不可
	アロンMDルーフカラー-Si	◎	◎	①0.2kg/m ² *2	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	—	◎	○	○
	アロンMDクールカラー-Si	◎	◎	①0.2kg/m ² *2	①0.15kg/m ² ②0.15kg/m ²	—	○	◎	不可
防滑仕上げ	アロンFTS	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ²	—	◎	—	—	不可
	アロン水性RU + アロンゴムチップ	○	—	①0.21kg/m ² (うちアロンゴムチップ 5g)	—	◎	—	—	○
	アロン水性クールカラー-RU + アロンゴムチップ	○	—	①0.21kg/m ² (うちアロンゴムチップ 5g)	—	◎	—	—	不可
	アロンMDクールカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.22kg/m ² (うちアロンゴムチップ 13g)	—	—	◎	○	○
	アロンMDルーフカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.22kg/m ² (うちアロンゴムチップ 13g)	—	—	○	◎	不可
耐摩耗仕上げ	①アロンFTS ②アロンFTS ③アロン水性RU + アロンゴムチップ	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.21kg/m ² (うちアロンゴムチップ 5g)	—	◎	—	—	○
	①アロンFTS ②アロンFTS ③アロン水性クールカラー-RU + アロンゴムチップ	◎	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.21kg/m ² (うちアロンゴムチップ 5g)	—	◎	—	—	不可
	①アロンFTS ②アロンFTS ③アロンMDクールカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.22kg/m ² (うちアロンゴムチップ 13g)	—	—	◎	○	○
	①アロンFTS ②アロンFTS ③アロンMDルーフカラー-Si + アロンゴムチップ	○	—	①0.5kg/m ² ②0.5kg/m ² ③0.22kg/m ² (うちアロンゴムチップ 13g)	—	—	○	◎	不可

*1:標準仕上げは雨で濡れると滑り易くなります。

*2:標準色ホワイトは、隠蔽性確保のため、0.15kg/m²×2回塗りとなります。

下地調整とプライマーの選定

1 選定表(改修)

既存防水層の種類		プライマーの種類と標準使用量(kg/m²)		備 考
保護アスファルト防水	現場打ち鉄筋コンクリート	アロン強化プライマー	0.4～0.5	SQ-S工法施工時
		アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布時
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
	アスファルトコンクリート	アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布 新築はレイタンス除去
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
	クリンカータイル	アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布*2
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
	保護層のみ撤去	アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
露出 アスファルト防水 *3、*4	砂付	アロン水性プライマー	0.1	SQ-M工法を未塗装の露出アスファルトに 直接施工する場合は省略可
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
高分子 ルーフィング防水 *3、*4	加硫ゴムシート(非加硫含む)	アロン強化プライマー	0.15～0.2	事前確認が必要*1
	塩化ビニル	アロン強化プライマー	0.15～0.2	事前確認が必要、可塑剤による硬化不良の可能性*1
	ゴムアス	アロン水性プライマー	0.1	事前確認が必要
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
塗膜防水*4	ウレタン・クロロプレン	アロン強化プライマー	0.1	1～3日の乾燥*1仕上塗料が健全な場合は水系プライマー
	タールウレタン	アロンQD-S	1	プライマーの代替として使用
	アクリルゴム アロンコートSQ	アロン水性プライマー	0.1	標準
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
	アクリルゴム	原則全面撤去		劣化が軽微な場合には、アロン水性プライマー またはアロン水性マルチプライマー塗布
	エチレン酢酸ビニル	原則全面撤去		
	FRP	アロン強化プライマー	0.1	目荒し後
シルバー塗装(撤去できない場合)		アロン水性プライマー	0.1	活膜以外は除去
		アロン水性マルチプライマー	0.1	
既存防水層を撤去する場合		アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布後
		アロン水性マルチプライマー	0.1	一次防水をする場合
		アロンQD-S	1.5	

*¹: アロン強化プライマー塗布後1~3日以上放置し、タックフリーになることを確認してください。

*²: 塗布量を調整し、タイル目地を消します。

*³: 既存防水層がシルバー仕上げの場合、ワイヤーブラシなどでシルバーを除去することを基本とします。シルバーを部分的に撤去できない場合は、プライマーとしてアロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(0.1kg/m²)を塗布します。下地調整を要する場合は、アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(0.1kg/m²)塗布後、アロンカチオクリートで修正し、その後さらにアロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(0.1kg/m²)を塗布します。シルバー仕上げに直接セメントなどのアルカリ系の材料(アロンカチオクリート、アロンQD-S、アロンコートSQ-M用調整材)を塗布すると、影の原因になります。

*⁴: 既存防水層を撤去する場合、アロンカチオクリート塗布後、アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(0.1kg/m²)を塗布するか、アロンQD-Sを塗布して下地調整します。

2 選定表(新築)

下地	プライマーの種類と標準使用量(kg/m ²)		備考
現場打ち鉄筋コンクリート * ⁶ プレキャスト鉄筋コンクリート部材 * ⁶	アロン強化プライマー	0.2~0.5	標準
	アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布時
	アロン水性マルチプライマー	0.1	
ALCパネル	アロン強化プライマー	0.4~0.5	標準
	アロン水性プライマー	0.1	アロンカチオクリート塗布時
	アロン水性マルチプライマー	0.1	
金属	アロン強化プライマー	0.1	塗装面は事前確認が必要 * ⁷

*⁶: アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマーを塗布する場合は、コンクリート表面のレイタンスをサンダーまたはボリッシャー等を用いて完全に除去してください。

*⁷: 塗装と金属の付着力が確保されていることを事前に確認してください。

3 注意事項

1) 防水層を部分撤去した場合は、アロンカチオクリートで埋め戻し、これ以降は非撤去に準じます。ただし、この上にアロン強化プライマーを塗布する場合は、1~3日放置して十分乾燥させます。

2) 下地調整およびプライマーの使用量は下地の状況により変動します。

3) アロンQD-S、アロンコートSQ-M用調整材は深さ1mm以上の不陸修正、巣穴充填、凹凸面の平滑化などの下地調整には使用できません。

(成膜時にひび割れる場合があります) 下地調整にはアロンカチオクリートを使用します。

4) 詳細は販売窓口のアロン化成(株)各店所にお問い合わせください。

各種工法の工程

1. 露出密着工法 SQ-S工法【適用部位：RC、PCa*¹、ALC*¹下地の陸屋根・バルコニー】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー* ²	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け* ⁴	2.0	1～3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料* ³ (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	* ³	1～3回

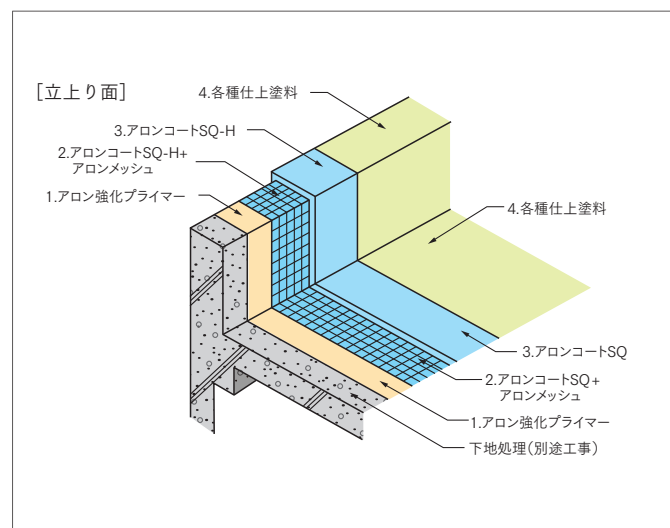
《注意事項》 ※ RCは現場打ち鉄筋コンクリート、PCaはプレキャスト鉄筋コンクリートパネル、ALCはALCパネルをあらわします。
 *¹：下地がPCa、ALCの場合は、別途処理として目地部アロンゴムシートテープ張りが必要になります。
 *²：プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 *³：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *⁴：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

2. 露出密着工法 SQ-SP工法【適用部位：RC造パラペット天端、立上り、庇】

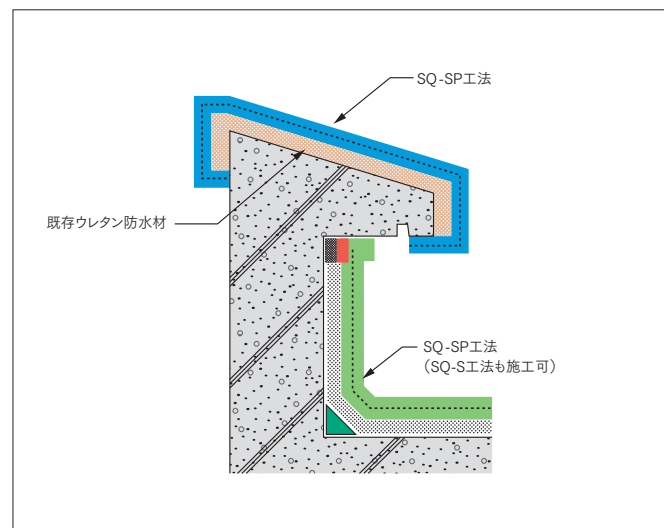
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー* ⁴	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ (すり込み塗り)* ³	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け* ²	1.0	1～2回
仕上塗料	4	各種仕上塗料* ¹ (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	* ¹	1～2回

《注意事項》 *¹：「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *²：吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 *³：庇においては、切付部分のみをアロンメッシュによる補強布張りをしてください。
 *⁴：プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

1 SQ-S工法(露出密着工法)



2 SQ-SP工法(露出密着工法)



3.露出通気緩衝工法 SQ-KS工法【適用部位：陸屋根・円形ドーム屋根・勾配屋根】

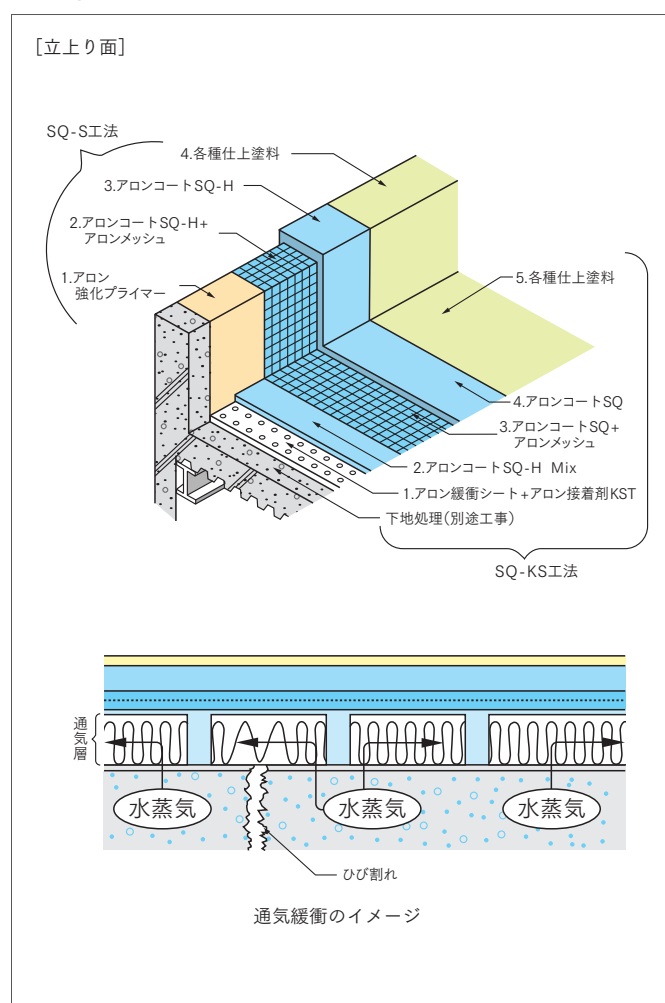
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
緩衝シート張り	1	アロン緩衝シート+アロン接着剤KST	ローラー塗り	0.2~0.4 (0.3~0.5)	1回
緩衝シートパンチ穴充填	2	アロンコートSQ-H Mix 又はアロンコートSQ-Mix (アロンコートSQ-H:25 珪砂6号:4の混合品)	コテ	0.8	1回
防水材	3	アロンメッシュ アロンコートSQ(すり込み塗り)	ローラー塗り	0.5	1回
	4	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	5	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りがります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1~2回

《注意事項》 *1:「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*2:吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

3 SQ-KS工法(露出通気緩衝工法)



各種工法の工程

4. 露出通気緩衝工法 SQ-TK工法【適用部位：陸屋根・円形ドーム屋根・勾配屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*3	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1~0.5	1回
防水材	2	アロンTKシート アロンコートSQ Mix	コテ塗り	1.02m 1.5	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1~2回

《注意事項》 *1:「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*2: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

*3: プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。

◎ 各使用製品の可使用時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

5. 勾配露出密着工法 SQ-K工法【適用部位：RC、PCa*1、ALC*1下地の勾配屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*4	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1~0.5	1~2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ-H(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1~3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*2	ローラー塗り または吹付け	*2	2回

《注意事項》 ※ RCは現場打ち鉄筋コンクリート、PCaはプレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCはALCパネルをあらわします。

*1: 下地がPCa、ALCの場合は、別途処理として目地部アロンゴムシートテープ張りが必要になります。

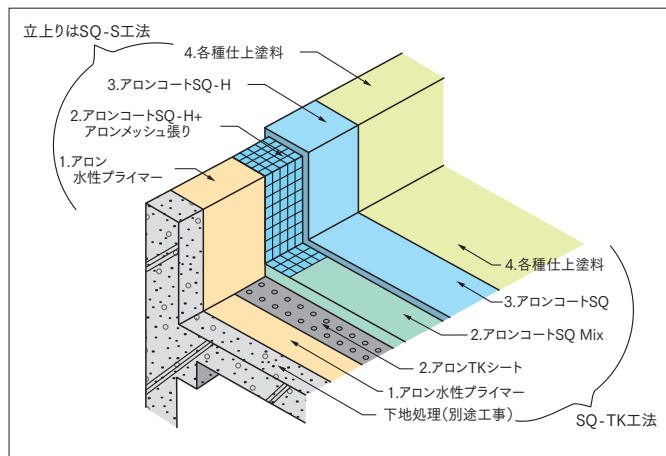
*2:「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*3: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

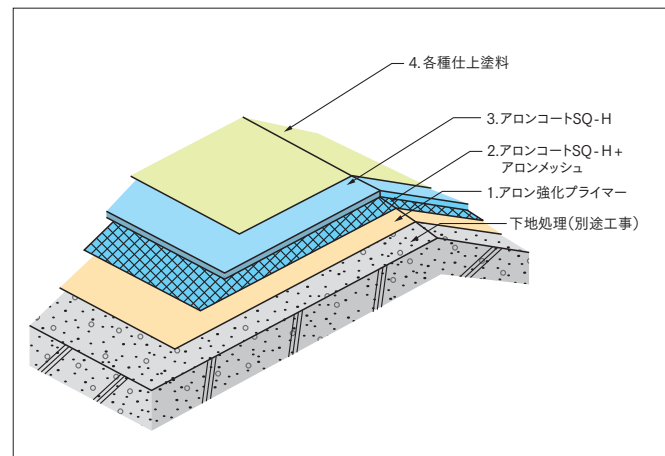
*4: プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。

◎ 各使用製品の可使用時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

4 SQ-TK工法(露出通気緩衝工法)



5 SQ-K工法(勾配屋根露出密着工法)



6.保護密着工法 SQ-HD工法【適用部位：陸屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*1	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンメッシュ アロンコートSQ(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け	2.0	1～3回
	4	アロンメッシュ アロンコートSQ	ローラー塗り	1.0	1回
仕上塗料			全面絶縁用シート施工(別途工事)		

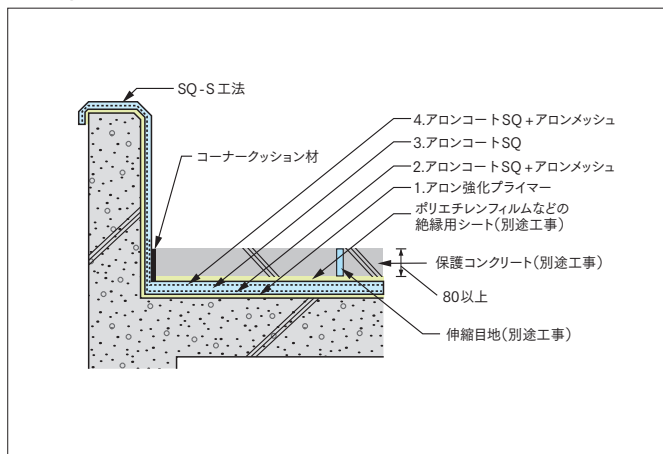
《注意事項》 *1:プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

7.ドーム屋根露出密着工法 SQ-KD工法【適用部位：RC造ドーム屋根】

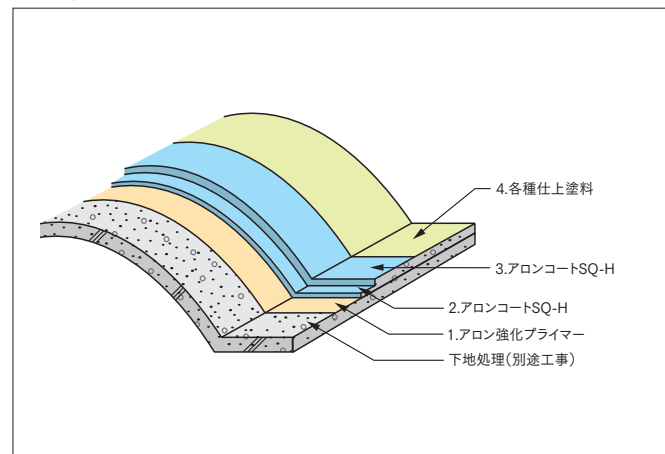
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*3	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンコートSQ-H(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1～3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1:「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *2:吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 *3:プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 ◎ SQ-M・SQ-AS・SQ-RSの各工法の可使時間、成膜時間などについては、別途標準仕様書をご参照ください。

6 SQ-HD工法(保護密着工法)



7 SQ-KD工法(RC造ドーム屋根露出密着工法)



各種工法の工程

8. 小屋根露出密着工法 SQ-RP工法【適用部位：小屋根(100m²以下)】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*2	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンコートSQ(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ	ローラー塗り	2.0	2～3回
	4				
仕上塗料	5	各種仕上塗料*1 (1回塗りと2回塗りががあります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1～2回

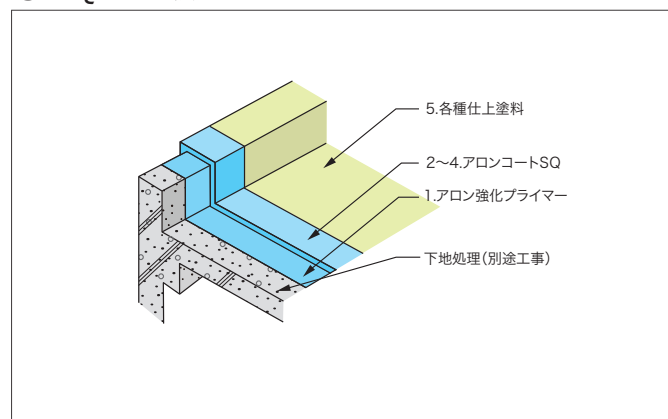
《注意事項》 *1:「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *2:プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

9. 塔屋壁面露出密着工法 SQ-HW工法【適用部位：塔屋壁面】

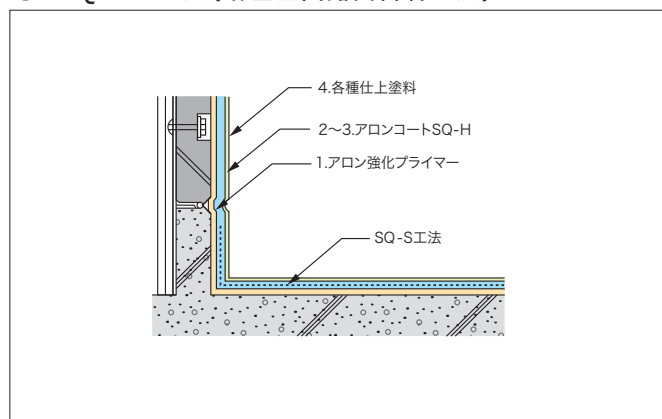
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー*4	1	プライマー選定表(p.15)に準じる	ローラー塗り	0.1～0.5	1～2回
防水材	2	アロンコートSQ-H*1	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1～3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*3	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1:目地部や板材継手部への補強塗りとして、別途アロンコートSQ-H(防水材)0.2kg/m²を幅50～100mmで塗布してください。
 *2:吹付けの場合は、アロンコートSQ-H(防水材)のうち0.3kg/m²を散らし吹きしてください。
 *3:「仕上塗料の適合性一覧表」(P.14)をご参照ください。
 *4:プライマーは、下地または既存防水層の種類により使い分けが必要になります。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

8 SQ-RP工法



9 SQ-HW工法(塔屋壁面露出密着工法)



10. 地下外壁密着工法 SQ-UW工法【適用部位：地下外壁（埋戻し面）】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1～0.3	1回
防水材	2	アロンコートSQ-H(すり込み塗り)	ローラー塗り	0.5	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*1	1.5	1～3回
保護緩衝材		全面緩衝材施工(別途工事)			

《注意事項》 *1: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ-H 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

11. アスファルトシングル葺屋根改修専用工法 SQ-AS工法【適用部位：アスファルトシングル葺屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロンQD-S(プライマーすり込み塗り)	ローラー塗り	1.5	2回*1
防水材	2	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	1.5	1～3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*3	ローラー塗り または吹付け	*3	2回

《注意事項》 *1: ピンホールをなくすため、プライマー兼下地調整材「アロンQD-S」は必ずローラーを用いて、2回に分けてすり込み塗りし、シングルの重ね合わせ部にピンホールやすき間がない事を確認してください。

*2: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ-H 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

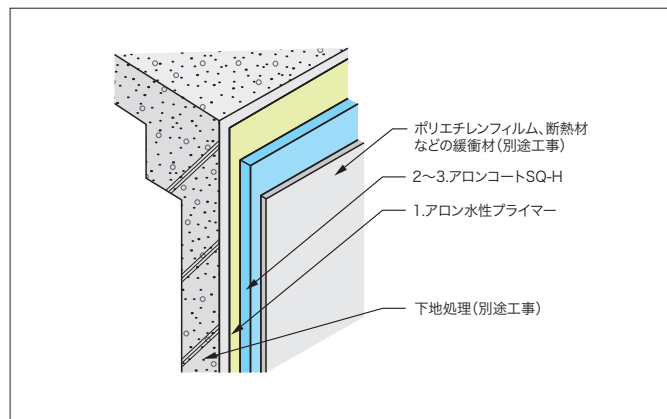
*3: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*4: 「SQ-AS工法」施工後20年以上経過時の改修時には「SQ-RK工法」を適用すること。

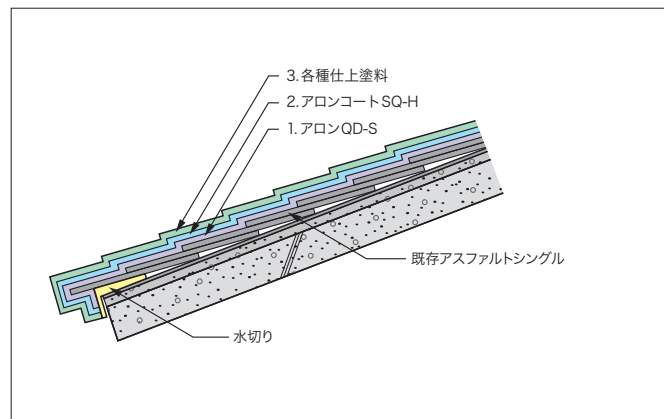
*5: 下地が不燃シングルであった場合はSQ-AS工法は適用不可。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

10 SQ-UW工法(地下外壁密着工法)



11 SQ-AS工法(アスファルトシングル葺屋根改修専用工法)



各種工法の工程

12. 砂付露出アスファルト防水改修専用工法 SQ-M工法【適用部位：砂付露出アスファルト防水】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマー*1またはアロン水性マルチプライマー*1	ローラー塗り	0.1～0.5	1回
	2	アロンコートSQ-M用調整材(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.5～2.0	1回
防水材	3	アロンメッシュ アロンコートSQ(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	4	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*3	2.0	1～3回
仕上塗料	5	各種仕上塗料*2 (1回塗りと2回塗りがあります。)	ローラー塗り または吹付け	*2	1～2回

《注意事項》 *1: 既存防水にシルバー塗装ではなく、未塗装の場合、アロン水性プライマー、アロン水性マルチプライマーの工程を省くことができます。

*2: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*3: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

13. スレート瓦葺屋根改修専用工法 SQ-RS工法【適用部位：スレート葺屋根】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー	ローラー塗り	0.1～0.2	1回
防水材	2	アロンコートSQ-H(すり込み塗り)	ローラー塗り	1.0	1回
	3	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1～3回
仕上塗料	4	各種仕上塗料*1	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

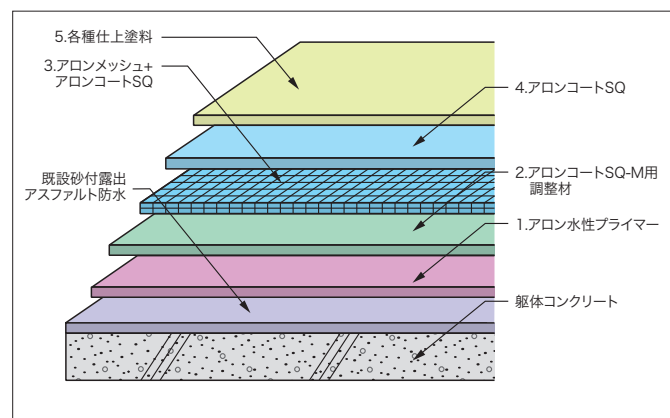
《注意事項》 *1: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。

*2: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ-H 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。

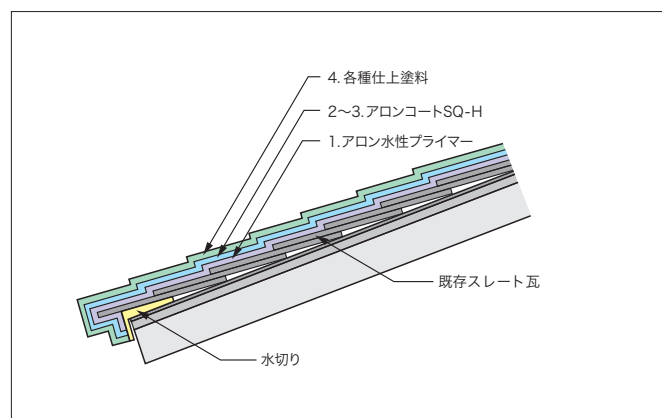
*3: ピンホールをなくすため、アロンコートSQ-Hのすり込み塗りは必ずローラー刷毛を用いてすりこみし、スレート瓦の重ね合わせ部分にピンホールや隙間がないことを確認してください。

◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

12 SQ-M工法(砂付露出アスファルト防水改修専用工法)



13 SQ-RS工法(スレート瓦葺屋根改修専用工法)



14. アロンリフレッシュRA工法 SQ-RA工法【適用部位：20年以内かつ、劣化が軽微な場合】

工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー*1	ローラー塗り	0.1～0.3	1回
防水材	2	アロンコートSQ	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1～3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*2 (1回塗りと2回塗りがります。)	ローラー塗り または吹付け	*1	1～2回

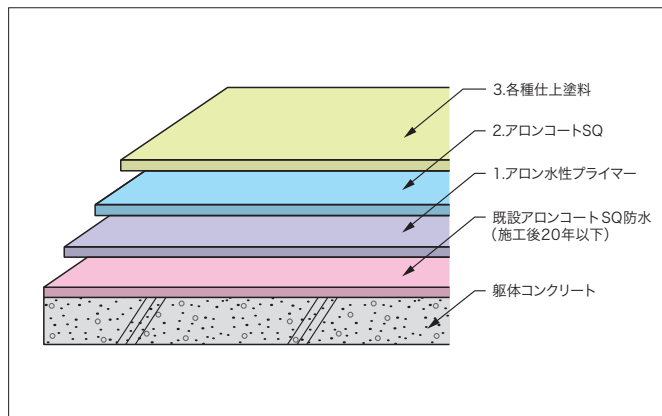
《注意事項》 *1: 既存アロンコートSQの仕上塗料がアロンFTS(アロンFT)仕上げの場合は、アロン強化プライマーとし、1日以上乾燥させてください。
 *2: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *3: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 *4: 既存アロンコートSQ塗膜の劣化が軽微な場合であることが工法適用条件です。販売窓口のアロン化成(株)各店所までご相談ください。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

15. アロンリフレッシュRK工法 SQ-RK工法【適用部位：アロンコートSQ施工後20年以内の勾配屋根】

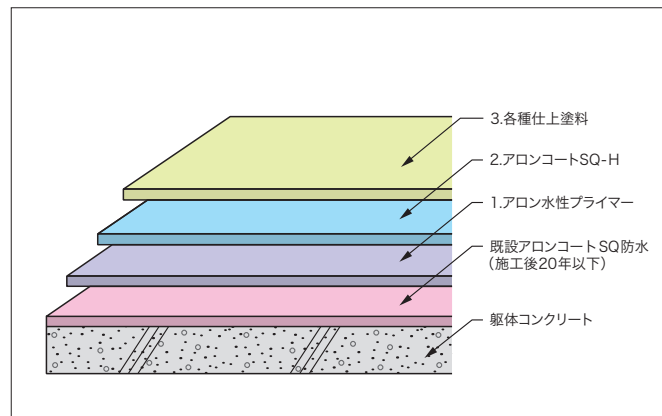
工程	図番号	使用材料	塗装方法	標準使用量 (kg/m ²)	塗布回数
下地処理	—	別途			
下地の確認および清掃	—				
プライマー	1	アロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー*1	ローラー塗り	0.1～0.3	1回
防水材	2	アロンコートSQ-H	ローラー塗り または吹付け*2	2.0	1～3回
仕上塗料	3	各種仕上塗料*2	ローラー塗り または吹付け	*1	2回

《注意事項》 *1: 既存アロンコートSQの仕上塗料がアロンFTS(アロンFT)仕上げの場合は、アロン強化プライマーとし、1日以上乾燥させてください。
 *2: 「仕上塗料の適合性一覧表」(p.14)をご参照ください。
 *3: 吹付けで乾燥条件が良い場合は吹き継ぎができますので、アロンコートSQ 0.2kg/m²を全体に吹付け、吹き継ぎを消します。
 *4: 既存アロンコートSQ塗膜の劣化が軽微な場合であることが工法適用条件です。販売窓口までご相談ください。
 ◎ 各使用製品の可使時間、成膜時間などについては別途標準仕様書をご参照ください。

14 SQ-RA工法(既設アロンコートSQ防水層の専用改修工法)

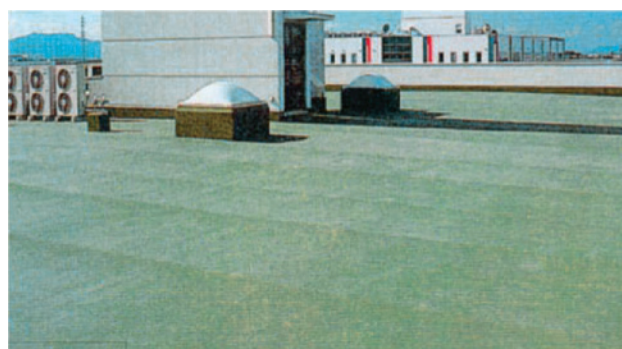
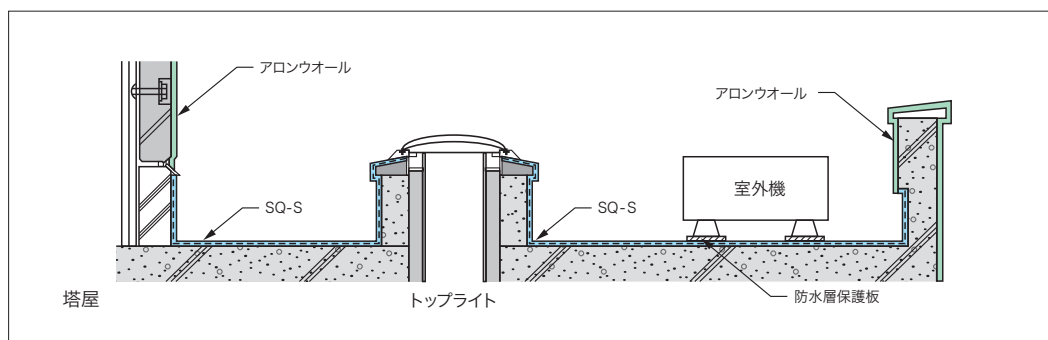


15 SQ-RK工法(既設アロンコートSQ防水層の専用改修工法)



施工例

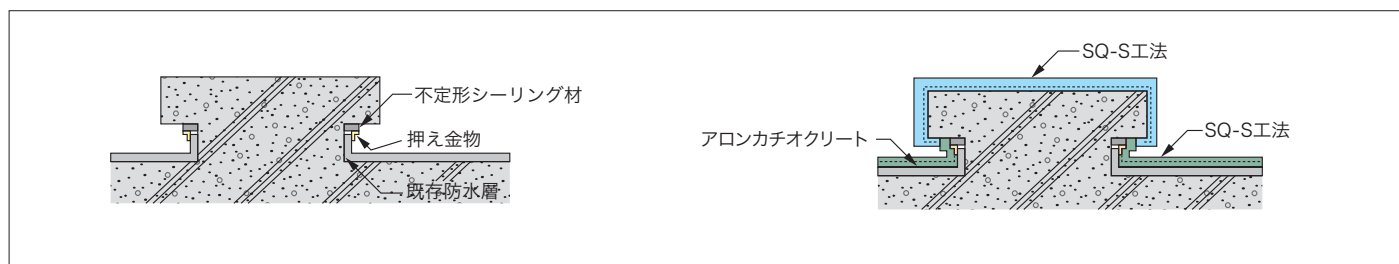
施工例 1 露出密着工法 [SQ-S工法]



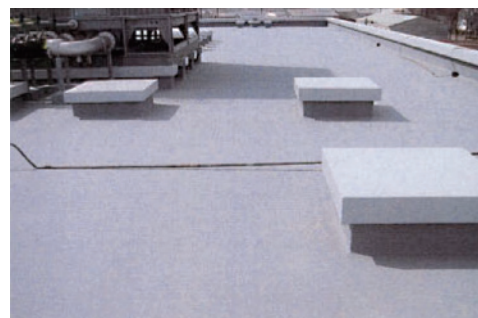
◀▲ 16年経過後、防水層に異常なし。

施工例 2 露出密着工法 [SQ-S工法]

砂付露出アスファルト防水(かぶせ工法)



施工前



施工後

施工例 3 露出密着工法 [SQ-S工法]

加硫ゴムシート防水の改修(かぶせ工法)



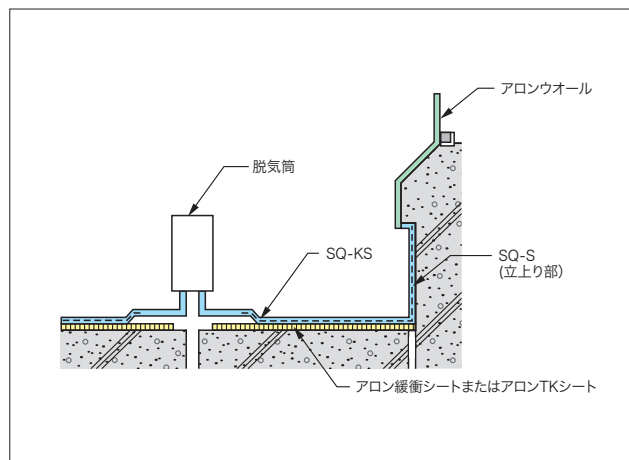
施工前



施工後

施工例 4 露出通気緩衝工法 [SQ-KS工法・TK工法]

保護アスファルト防水の改修(かぶせ工法)



施工前



施工後



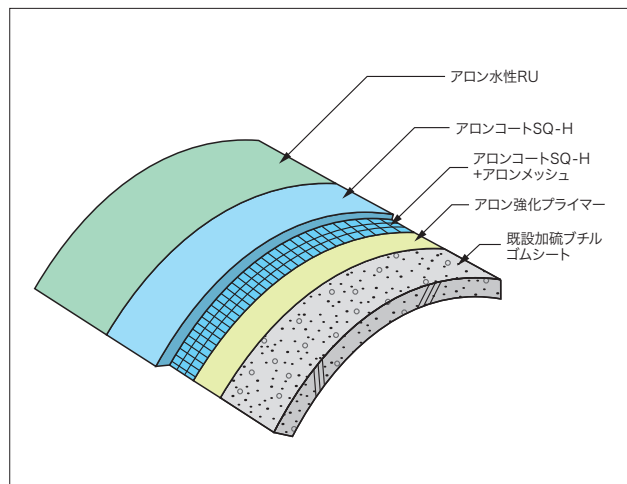
脱気筒は100～150m²に1箇所を目安に設置します。

施工例

施工例 5 勾配屋根露出密着工法

[SQ-K工法]

加硫ゴムシート防水の改修(かぶせ工法)



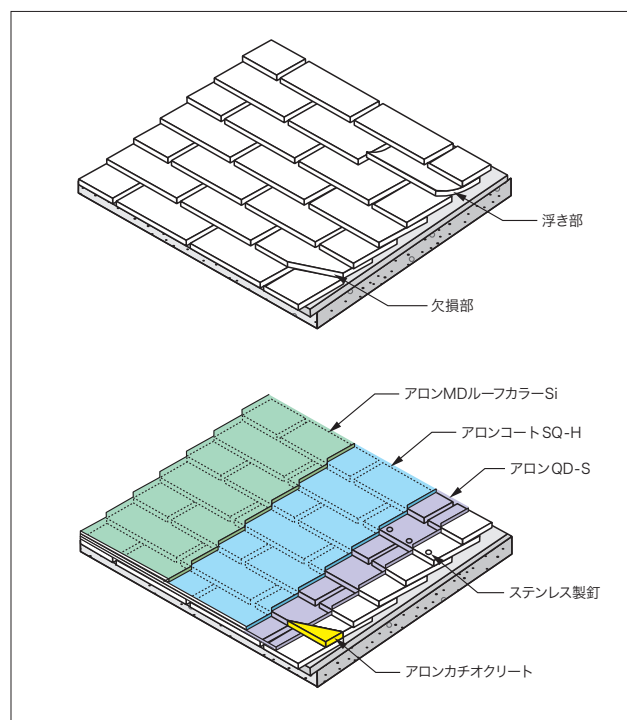
施工中



施工後



施工例 6 アスファルトシングル葺屋根改修専用工法 [SQ-AS工法]



施工前



施工後

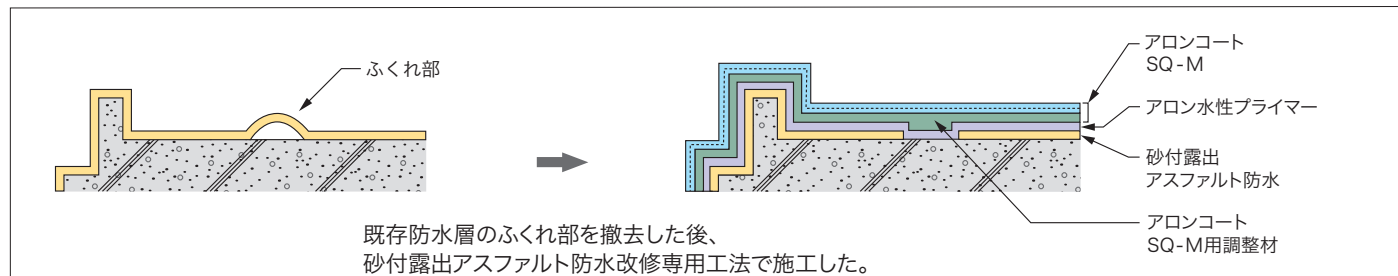


施工例 7

砂付露出アスファルト防水改修専用工法

〔SQ-M工法〕

砂付露出アスファルト防水の改修(かぶせ工法)



施工前



下地処理(ふくれ部撤去)



施工後

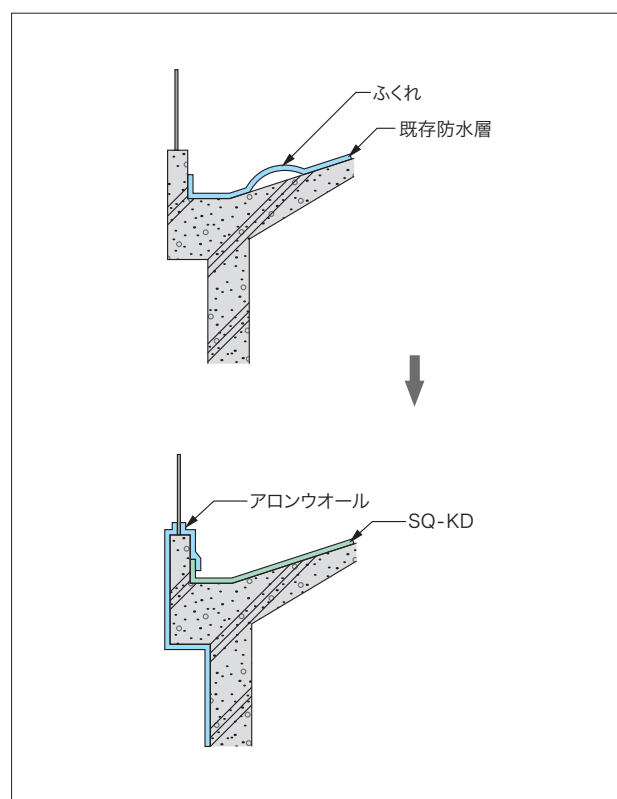
施工例 8

RC造ドーム屋根露出密着工法

〔SQ-KD工法〕

ウレタンゴム系塗膜防水の改修

施工前



施工後



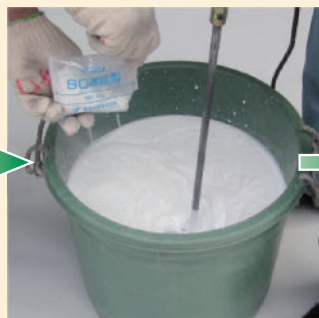
施工

アロンコートSQ(防水材)の練混ぜ

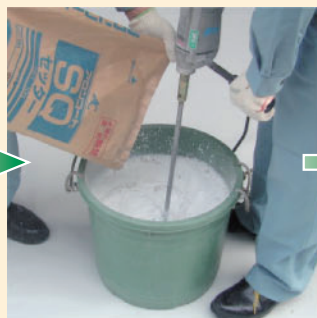
1セット(25kg)=SQベース1箱(15kg)+SQセッター1袋(10kg)



丸型容器約30リットルにSQベース1箱(15kg)を投入する。



必要に応じてSQ遅延剤を投入する。



攪拌しながらSQセッター1袋(10kg)を逐次投入する。粘度を調整し、2～3分間十分に混合する。



20メッシュ程度の網で濾過する。



SQベースの中にセッターを投入します。投入順序を反対にすると混合できません。



攪拌機は、分散形羽根高速攪拌機を使用します。



攪拌羽根形状

施工手順例

SQ-S

1 プライマー塗布または吹付け

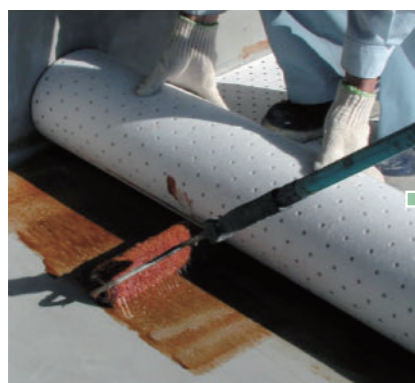


別途:下地処理
目地部補強張り(PCa、ALCの場合)



SQ-KS

1 通気緩衝シート張り



2 パンチ穴充填



吹付けのほか、ローラー、左官刷毛やコテでの施工ができます。

ローラー、左官刷毛やコテでアロンコートSQ(防水材)を施工する場合は、
1回の使用量を 1.0kg/m^2 以内にし、使用量は工程数を増やすことにより調節します。



ローラーでの施工(2〜3回塗り)



左官刷毛での施工(2回塗り)

2 メッシュ張り



3 防水材吹付け(1回塗り)



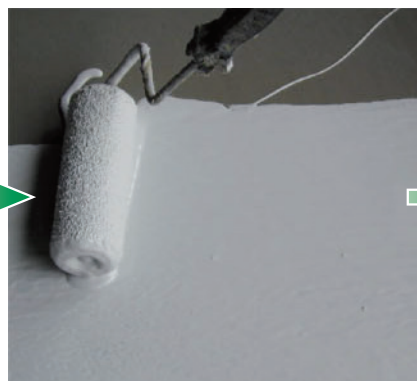
4 仕上塗料吹付け



3 メッシュ張り



4 防水材塗布(2〜3回塗り)



5 仕上塗料塗布



■ アロンコートSQ(防水材)各配合の塗膜物性

			SQ 配合	SQ-F 配合	測定方法
引張性能	引張強さ(N/mm ²)	23℃	1.4	1.4	養生:24h-23℃+72h-40℃ ダンベル状3号形(1mm厚) 引張速度:200mm/min
		−20℃	6.4	3.9	
		60℃	1.0	1.0	
	破断時の伸び率(%)		450	470	
	抗張積(N/mm)		126	132	
	破断時のつかみ間の 伸び率(%)	23℃	200	321	
		−20℃	106	139	
		60℃	106	225	
引裂性能	引裂強さ(N/mm)		12.7	12.7	B形、引張速度:200mm/min
加熱伸縮性能	伸縮率(%)		−0.3	−0.3	300×30mm短冊、168h-80℃
劣化処理後の引張性能	引張強さ比 (%)	加熱処理	100	141	ダンベル3号形 168h-80℃ オープンフレームカーボンアークランプ250h 168h-0.1%-NaOHの飽和Ca(OH) ₂ 168h-2%-H ₂ SO ₄
		促進暴露処理	121	100	
		アルカリ処理	121	107	
		酸処理	114	50	
	破断時の伸び率 (%)	加熱処理	385	465	上記に同じ
		促進暴露処理	382	395	
		アルカリ処理	355	435	
		酸処理	370	618	
伸び時の劣化性状		加熱処理	合格	合格	ダンベル1号形 100%伸張 168h-80℃ 50%伸張オープンフレームカーボン アークランプ250h 40%伸張 168h-40℃ 75pphm
		促進暴露処理	合格	合格	
		オゾン処理	合格	合格	
固形分(%)			75	74	JIS K 5601-1-2

JIS A 6021 - 2011 建築用塗膜防水材(屋根用)による

■ 防水材の性状

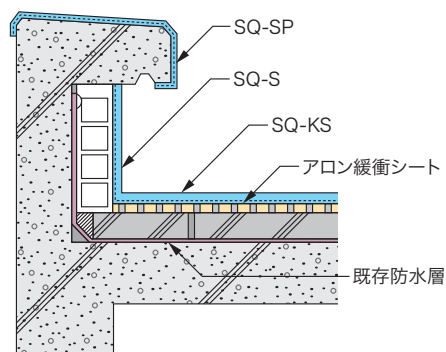
			SQ 配合	SQ-F 配合
配合	ベース		SQベース	SQベースF
	セッター		SQセッター	SQセッターF 硬化剤 SQセッターF フィラー
混合後	固形分(%)		75	74
	比重	液	1.20	1.15
		乾燥膜	1.44	1.41
	1kg/m ² 塗布時の乾燥膜厚(理論値)		0.52mm	0.52mm

上記データは実験値であり保証値ではありません。

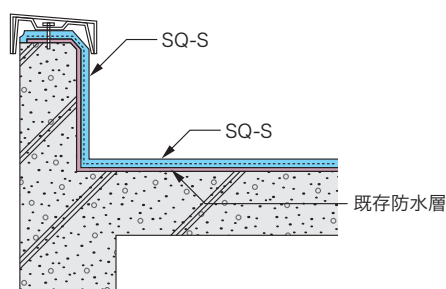
■ パラペットおよび入隅部の納まり

改 修

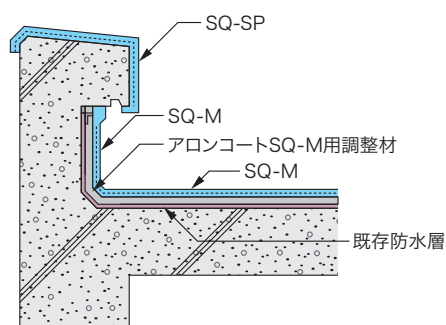
保護アスファルト防水の場合



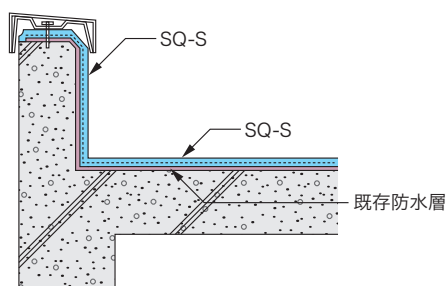
高分子ルーフィング防水の場合



露出アスファルト防水の場合

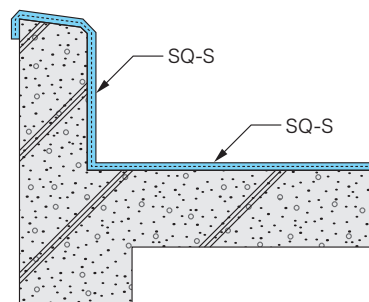


塗膜防水の場合

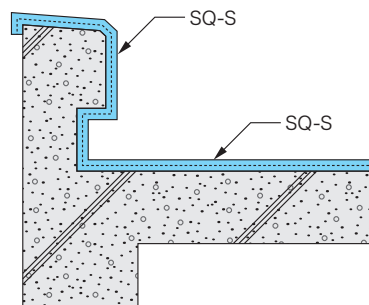


新 築

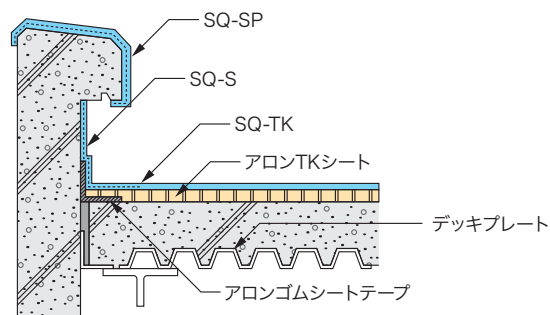
SQ-S (RC下地)の場合



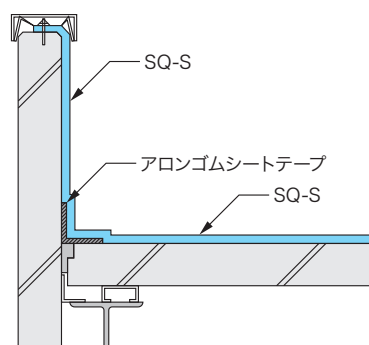
SQ-S (RC下地)の場合



SQ-TKの場合



SQ-S (ALC下地)

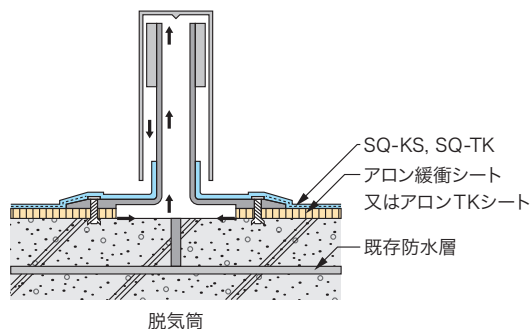


※既存防水層の入隅が浮いている場合は、縁切りを行う。

【改修】

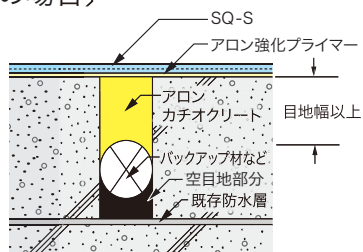
■ 保護アスファルト防水の脱気処理例

〔SQ-KS、SQ-TKの場合〕



脱気筒の設置例

〔SQ-Sの場合〕

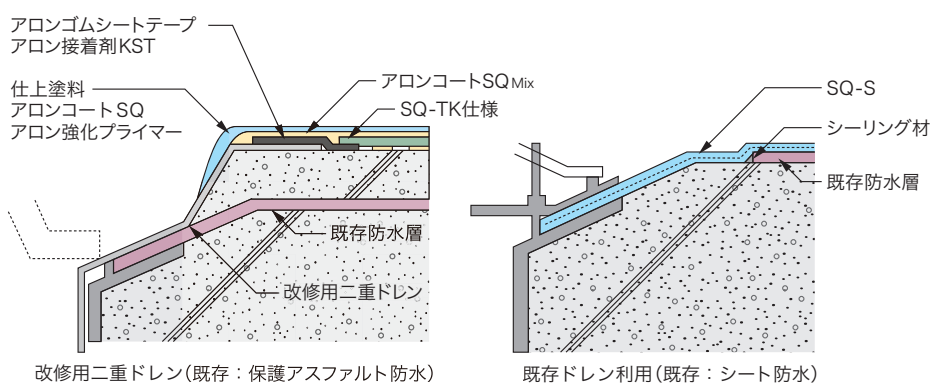


目地処理の施工例

伸縮目地処理例(脱気筒を併用します) ※施工前に吸引機で目地に残っている水を除去すること。除去不可の場合はアロンゴムシートテープを併用し補強すること。

■ ルーフドレン回り

〔縦引き型〕

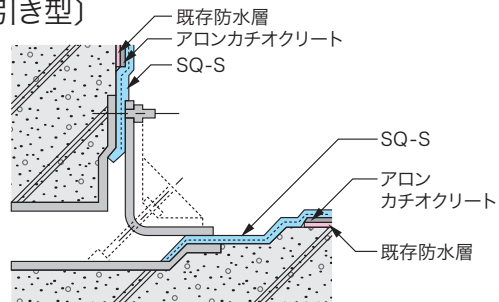


施工前



施工後

〔横引き型〕



施工前

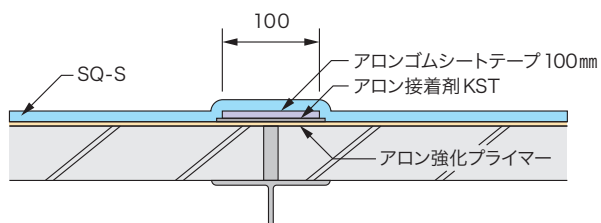


施工後

既存ドレン利用(既存：砂付露出アスファルト防水)

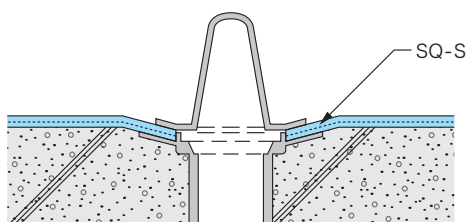
【新築】

■ PCa、ALC継手目地の納まり

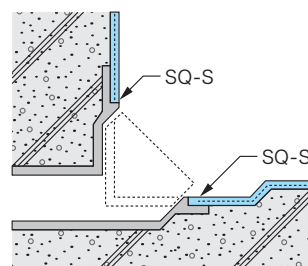


アロンゴムシートテープの張付け

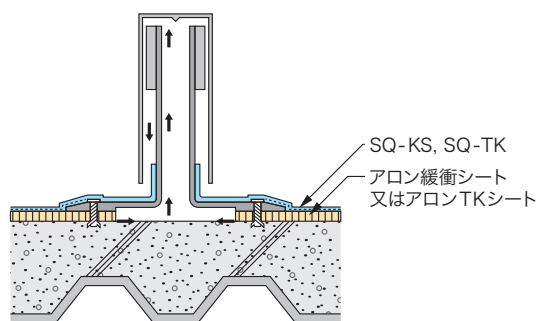
■ 縦引き型ルーフドレン（塗膜防水用）



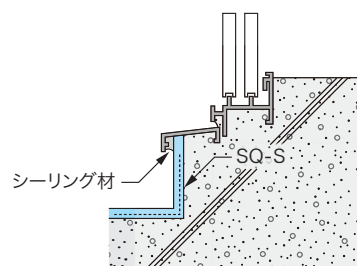
■ 横引き型ルーフドレン（塗膜防水用）



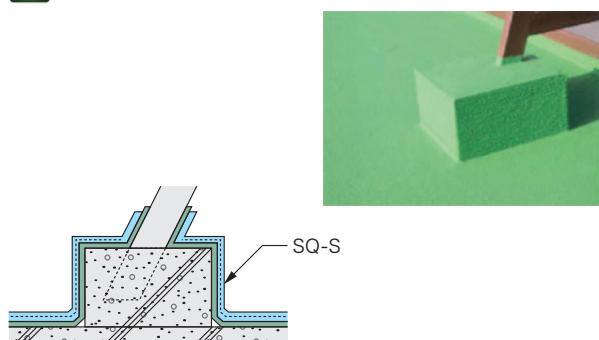
■ 脱気筒



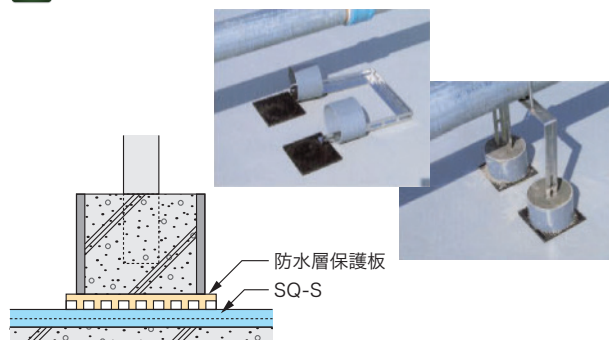
■ サッシ回り



■ 手すり基礎



■ 架台基礎



注意事項

■ 下地処理について

1 下地の乾燥

1) 新築の場合

新築のコンクリートやモルタルは、一般的には4週間以上の養生が必要となります。乾燥程度は、Kett水分計(HI-520)で10%以下としてください。

2) 改修の場合(既存防水層への施工)

下地の乾燥は防水工事において重要な条件となります。下地の乾燥が不十分な状態での防水工事を行うことは、膨れの原因となります。

2 下地の平滑性

下地の平滑性も重要な条件になります。下地の凸部や突起物は、サンダー等で除去してください。また、不陸部や水溜りのできる箇所には、アロンカチオクリートで平滑に仕上げてください。

3 下地勾配の確認

陸屋根の下地の勾配は1/100～5/100の範囲に納まるようにしてください。勾配の調整には、アロンカチオクリートを使用してください。

4 下地の浮きおよび脆弱部

下地の浮きや接着力不足の場合には、防水層の浮きの原因になります。浮きおよび接着力不足の有無を確認し、その部分を撤去した後、アロンカチオクリートで平滑に仕上げてください。

5 下地の清掃

下地表面の汚れは、防水層への下地接着力不足を招き、膨れの原因にもなります。下地の清掃をするともに汚れを除去してください。また、同時にレタンスを除去し、下地の脆弱部分も処理してください。

6 出隅部・入隅部の処理

入隅部は直角仕上げとなっていることが望ましく、出隅部は10～20mm程度の丸面または5mm程度の面取りを行ってください。

7 貫通パイプ回りの処理

改修で金属製パイプは錆や塗料を除去した後にアロンMD防錆プライマーまたはアロン水性マルチプライマーを塗布し、また、塩ビ製のパイプはアロン強化プライマーまたはアロン水性マルチプライマーを塗布して防水材を用いてアロンメッシュによる補強布張りを行ってください。

8 目地の処理(改修時)

保護層に目地材がある場合には、できるだけ除去した後に、空目地や砂目地処理を行ってください(p.33参照)。

■ 防水材の種類

防水材には、平場用の「アロンコートSQ」と立上り用の「アロンコートSQ-H」があり、それぞれに、標準の「SQ配合」と短時間で成膜する「SQ-F配合」があります。施工現場の条件等により選択してください。

防水材の種類	用途	配合			
		SQ 配合		SQ-F 配合	
アロンコートSQ	平場用	アロンコートSQベース	15kg	アロンコートSQベースF	15kg
		アロンコートSQセッター	10kg	アロンコートSQセッターF 硬化剤	0.35kg
アロンコートSQ-H	立上り用	アロンコートSQベース	15kg	アロンコートSQベースF	15kg
		アロンコートSQセッター-H	10kg	アロンコートSQセッターF 硬化剤	0.35kg

■ 施工を始めるに当たって

1 気候の条件

1) 施工時の気温

5℃以上で施工してください。なお、アロンコートSQは、35℃以上で長距離圧送してエアレススプレーで施工する場合、必要に応じてSQ遅延剤を1包追加し、可使時間を調整してください。

2) 施工の中止

降雨、降雪、強風が予想される場合は、施工を中止してください。

2 防水材の粘度調整

施工機器により粘度を調整する場合は、清水を使用し、1セット当たり下表の希釈水量に従ってください。

SQ配合	アロンコートSQ	アロンコートSQ-H
吹付け・ローラー	250～500mℓ	250～750mℓ
左官刷毛・コテ	250～500mℓ	—

SQ-F配合	アロンコートSQ	アロンコートSQ-H
吹付け・ローラー	0～1,000mℓ	0～750mℓ
左官刷毛・コテ	0～1,000mℓ	—

■ 施工上の安全管理

1 保護具の着用

アロンコートSQは、取扱いにあたっては保護衣、安全帽、保護手袋、保護眼鏡等の着用を励行してください。

2 危険物の取扱い

一部のプライマーおよび仕上塗料は消防法に定める危険物に該当します。施工にあたっては、材料の運搬、保管、貯蔵や取扱いに十分注意してください。

3 作業環境の管理

防水工事にあたっては、常に作業上の危険や事故防止に配慮してください。また、施工の現場だけでなく周辺地域に対しても十分配慮してください。



■ 各工法の注意事項

1 各工法共通

- 1) 新築現場で鉄筋コンクリート、プレキャスト鉄筋コンクリート部材、ALCパネルに施工する場合は、アロン強化プライマー0.2～0.5kg/m²を塗布してください。
水系プライマーを使用する場合は、サンダーやポリッシャーを用いて、下地表面のレイトランスを完全に除去してください。
- 2) 下地が全面ポリマーセメントモルタル(アロンカチオクリート)塗りの場合は、アロン強化プライマーに替えてアロン水性プライマーまたはアロン水性マルチプライマー(使用量0.1～0.2kg/m²)を使用してください。
- 3) アロンコートSQ(防水材)をローラー・左官刷毛で1.0kg/m²以上塗布する場合は、1回の使用量は1.0kg/m²以内とし工程数を増やして対応してください。
- 4) アロンFTSをローラーで塗布する場合使用量は1.0kg/m²とし、2回に分けて仕上げてください。
- 5) 立上り部の防水材には、アロンコートSQ-H(防水材)を使用してください。アロンコートSQ(防水材)を使用することも可能ですが、水希釈量と塗布回数を調整してください。
- 6) 標準仕上げて、防水層に吹継ぎが生じる場合には、防水材のうち0.2kg/m²を散らし吹きしてください。
- 7) アスファルト防水の砂利押えの場合、防水層、下地に水分を多く含むことがあるため、防水層を部分的に切開し、水が多い場合には防水層全面撤去または十分な乾燥期間を設けてください。
- 8) 立上り部に、アロン水性RUを塗布する場合には、0.15kg/m²を2回塗りとしてください。
- 9) 既存防水層の仕上げがアロンFTSのような骨材入り仕上塗料の場合、高圧水洗によりぜい弱な層を十分に除去して下さい。ぜい弱な層が残存するとアロンコートSQ施工後のふくれの原因となります。
- 10) アロン水性RUやアロンFTSなどの水系仕上塗料には、界面活性剤を添加しています。施工面積や屋根形状、降雨量などにより異なりますが、稀に施工成膜後の降雨により、ドレンから樋を通じて排水マスや側溝などに流れ込んだ雨水が発泡する場合があります。
- 11) 標準仕上げて、標準色ホワイトを使用する場合には、陸屋根でも隠蔽性確保のため0.15kg/m²×2回の仕様としてください。
- 12) メーカーからの提出書類には工法名の後に仕様記号が記載されていることがありますが、材料を特定するための記号であり通常は使用しません。

2 SQ-S

- 1) 保護アスファルト防水の改修では、アロン強化プライマー0.5kg/m²を2回に分けて塗布してください。
- 2) 保護アスファルト防水の改修では、目地処理(通気目地、溝目地処理)および脱気筒を設置してください。

3 SQ-SP

- 1) 庇においては、切付部分のみアロンメッシュによる補強布張りをしてください。

4 SQ-KS

- 1) 鉄骨造円形ドーム等屋根勾配5/100以上の場合は、立上り部用防水材アロンコートSQ-H(防水材)を使用してください。
- 2) 下地に含水が多く、脱気装置を必要とする場合は、特記仕様によります。
- 3) 鉄骨造円形ドームでの仕上塗料は標準仕上げとし、勾配屋根相当の標準使用量としてください(P14)。
- 4) アロン緩衝シートの立上り部およびシート相互は突付け張りとしてください。
- 5) アロン緩衝シートは、屋上側溝も張り付けることを原則とします。

5 SQ-K

- 1) アロンコートSQ-H(防水材)に替えて、外壁塗膜防水材「アロンコートST」も使用可能です。この場合、アロンウオール用仕上塗料を使用します。
- 2) 鋼製下地の場合は、特記仕様によります。

6 SQ-HW

- 1) パネル継手目地部は、先にノンブリード型シーリング材を充填してください。
- 2) 立上りが低い場合には、屋根と同じ仕上塗料も使用可能です。
- 3) アロンコートSQ-H(防水材)に替えて、外壁塗膜防水材「アロンコートST」も使用可能です。この場合、アロンウオール用仕上塗料を使用します。

7 SQ-AS

- 1) アスファルトシングルのめくれあがり等は、適宜、補修してください。
- 2) 施工後は表面が滑りやすくなり、雨水の流れ方、積雪の落ち方に変化が発生します。雨樋の調整や雪止めの設置を適宜実施してください。
- 3) 不燃シングル下地は、下地から剥がれやすく、脆弱なため適用不可としています。

8 SQ-M

既存防水層の状態によってはSQ-Mの施工により、膨れが発生する場合がありますが、防水性能上は問題ありません。

使用材料一覧

主材料一覧表

分類	材料名称		使用目的	性状	荷姿
プライマー	※アロン強化プライマー		下地に塗布含浸させ下地の強化と防水層との接着性向上	特殊変性2液反応硬化形 エポキシ樹脂有機溶剤溶液 主 剤：消・危、第4類第2石油類 硬化剤：消・危、第4類第1石油類	主剤8.2kg/缶 硬化剤6.8kg/缶 15kg/セット
	アロン水性プライマー		防水層との接着性向上	2液反応硬化形水系 エポキシ樹脂エマルジョン	主剤6kg/缶 硬化剤6kg/缶 12kg/セット
	アロン水性マルチプライマー			特殊変性エポキシ樹脂エマルジョン	16kg/缶
	アロンQD-S	アロンQD ベース	SQ-ASの下地調整兼プライマー 密着工法の仮防水材兼プライマー	カチオン性アクリルゴム エマルジョン	15kg/缶
		アロンQD セッターS		無機質硬化剤	20kg/袋
	アロンコートSQ-M用調整材 A材		SQ-M仕様の下地調整兼プライマー	乳白色カチオン性 アクリル樹脂エマルジョン	3kg/袋×6袋 18kg/セット
	アロンコートSQ-M用調整材 B材			無機質硬化剤	20kg/袋
補強布 通気緩衝 シート	アロンメッシュ		防水層の強度を高め、下地の動きに 対する追従性向上	ポリエステル繊維メッシュ 密度 約23×約22本/インチ 幅1,040mm 長さ 50m/巻	1巻/箱 2巻/箱
	アロンメッシュ(ミドルタイプ)			ポリエステル繊維メッシュ 密度 約23×約18本/インチ 幅1,040mm 長さ 50m/巻	
	アロンゴムシートテープ		特に動きの大きい所に下張りし、 下地の動きを吸収、追従性向上	表面合成繊維不織布付 アクリルゴムシート状テープ 厚み 約0.4mm 長さ 50m/巻	4巻/箱(100mm幅) 8巻/箱(50mm幅)
	アロン接着剤KST		アロンゴムシートテープおよび アロン緩衝シートの接着に使用	アクリルウレタン樹脂系接着剤	18kg/缶
	アロン緩衝シート		下地挙動の緩衝および下地水分の 通気を目的とした下張りシート	表面熱処理加工、有孔ポリエステル、 繊維製不織布シート 厚み 約1.2mm 幅 1.2m 長さ 50m/巻	1巻/巻
	アロンTKシート			ガラスクロス、有孔ポリエステル 複合シート 幅1m 長さ 100m/巻	1巻/巻
防水材	SQ 配合	アロンコートSQベース	専用セッターと混ぜ防水剤として使用	カチオン性アクリルゴムエマルジョン	15kg/箱又は缶
		アロンコートSQセッター アロンコートSQセッター(冬用)	SQベースと混ぜ防水剤として使用	無機質硬化剤	10kg/袋
		アロンコートSQセッターH	SQベースと混ぜ防水剤として使用	無機質硬化剤	10kg/袋
	SQF 配合	アロンコートSQベースF	専用硬化剤とフィラーを混ぜ防水剤として使用	アクリルゴムエマルジョン	15kg/缶
		アロンコートSQセッターF 硬化剤	SQベースとフィラーを混ぜ防水剤として使用	水系ポリマー硬化剤(黒色)	350g×6袋/箱
		アロンコートSQセッターF フィラー	SQベースFと専用硬化剤を混ぜ防水剤として使用	無機質充填剤	10kg/袋
		アロンコートSQセッターF フィラーH	SQベースFと専用硬化剤を混ぜ防水剤として使用	無機質充填剤	10kg/袋
	アロンコートSQ Mix.セッター		SQベースと混ぜ、アロンTKシートの 穴埋め充填材として使用	無機質硬化剤	16kg/袋
	SQ遅延剤		SQ配合の可使時間延長	白色無機系粉体(必要に応じて添加)	45g/包 50包/箱

※ 有機溶剤溶液系材料

分類	材料名称	使用目的	性状	荷姿
仕上塗料	アロン水性RU	防水層の保護および汚染防止	水性アクリルウレタン樹脂塗料(艶消し)	15kg/缶
	アロン水性クールカラーRU	防水層の保護および遮熱効果の付与(遮熱仕様)	水性アクリルウレタン樹脂高日射反射率塗料(艶消し)	15kg/缶
	アロンFTS	防滑仕上げ用(ローラー用) 平面防水層の軽歩行用保護および汚染防止	骨材入りアクリル樹脂エマルジョン	20kg/缶
	※アロンMDルーフカラー-Si(半艶)	防水層の保護および汚染防止	低汚染タイプ 2液反応硬化形弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料 主剤・硬化剤:消・危、第4類第2石油類	主剤12kg/缶 硬化剤2kg/缶 14kg/セット
	※アロンMDルーフカラー-Si(半艶)	防水層の保護および汚染防止	低汚染タイプ 2液反応硬化形弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料 主剤・硬化剤:消・危、第4類第2石油類	主剤12kg/缶 硬化剤2kg/缶 14kg/セット
	※アロンMDルーフカラー-Si用シンナー	アロンMDルーフカラー-Siの希釈	無色透明な芳香族系有機溶剤溶液 消・危、第4類第2石油類	12.8kg/缶
	※アロンMDクールカラー-Si	防水層の保護および遮熱効果の付与(遮熱仕様)	低汚染タイプ 2液反応硬化形弱溶剤系アクリルシリコン樹脂高日射反射率塗料 艶ややあり・半艶消し主剤・硬化剤:消・危、第4類第2石油類	主剤12kg/缶 硬化剤2kg/缶 14kg/セット
	※アロンMDクールカラー-Si用シンナー	アロンMDクールカラー-Siの希釈	無色透明な芳香族系有機溶剤溶液 消・危、第4類第2石油類	12.8kg/缶
	アロン水性シルバー	アロンコートSQ用水系合成樹脂塗料	水系アクリルシルバー塗料	15kg/缶

※ 有機溶剤溶液系材料

副材料一覧表

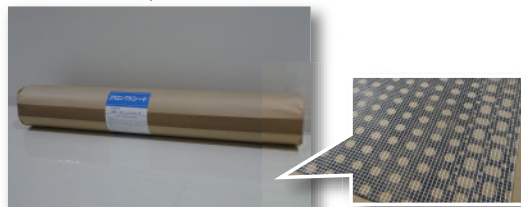
分類	材料名称	使用目的	性状	荷姿
充填材	珪砂6号	アロンコートSQ及びSQ-Hに混合して アロンTKシートとアロン緩衝シートの穴埋め充填材として使用		市販品
	アロンゴムチップ	防滑耗仕上げ用細目ゴムチップ		750g/包 4包/箱
脱気装置	金属製脱気筒	緩衝層を通して集めた水蒸気を大気中に 散逸させる目的で、平面部水上に設置	金属製脱気筒 例(株)シーケー 052-761-3975 100~150m ² に一箇所取り付け	市販品
下地処理材	アロン カチオクリート	アロンカチオクリートベース	ベースとフィルラーを混ぜカチオクリート (ポリマーセメントモルタル)として 下地処理に用いる	カチオン性アクリル樹脂 エマルジョン
		アロンカチオクリートフィルラー F-Q、F-1、F-2、F-3		既調合粉体
	アロン カチオクリート 厚付	アロンカチオクリートベース	30~50mm深さの欠損や はつり跡に1回の塗りつけで埋め戻す	カチオン性アクリル樹脂 エマルジョン
		アロンカチオクリートフィルラー F-K		既調合粉体
防錆 プライマー	※アロンMD防錆プライマー	鋼板の化学的防蝕および防水層との 付着力向上	2液反応硬化形 エポキシ樹脂弱溶剤溶液 主 剤:消・危、第4類第2石油類 硬化剤:消・危、第4類第2石油類	主剤14kg/缶 硬化剤2kg/缶 16kg/セット
	※アロンMD防錆プライマー用 シンナー	アロンMD防錆プライマーの希釈	無色透明な芳香族系 有機溶剤溶液 W:消・危、第4類第1石油類 A:消・危、第4類第2石油類	16ℓ/缶 4ℓ/缶
溝目地	溝目地	既設防水押え層の伸縮目的に設置し、 下地の水蒸気を集め導く目的に用いる	合成樹脂(耐衝撃性塩ビ)製 成形品(商品名 フクビ溝目地) 市販品 例 フクビ化学工業(株)03-5742-6301	――
シーリング材	アロンシーラントPU-1N	ドレン回りなどの線防水	ノンブリード形1成分 ポリウレタンシーリング材	320mℓ/本 10本/箱
水切りテープ	オルタックアゴテープ	パラペットアゴ下専用水切りテープ	田島ルーフィング(株)製 アロン水性マルチプライマーまたは、アロン強化 プライマーを0.1kg塗布してください。	◎ 市販品

※ 有機溶剤溶液系材料

アロンメッシュ



アロン TK シート



《注意事項》◎ オルタックアゴテープのご購入は建材商社にお問い合わせください。

アロンコートSQ 施工後の維持管理

施工が完了したアロンコートSQ防水層を健全に維持するためには、施工後の維持管理が重要です。
施主および建物管理者には、以下のような管理をお願いいたします。

■ 維持管理のお願い

アロンコートSQの防水性能を長期にわたって維持するためには、以下の管理をお願いいたします。

- ① 定期的な点検を行い、排水溝、ルーフドレン回りに溜まった土砂、落ち葉などは定期的に取り除き、水たまりのないようにしてください。また、防水層上には苔や草をはやさないようにしてください。
- ② 防水層や仕上塗料に剥がれ、ひび割れ、薄くなっているなどの異常が認められた場合には、弊社または施工業者にご相談ください。
- ③ 増改築や空調機器の設置などで防水層に手を加えることが必要な場合は、施工業者にご相談ください。
- ④ 仕上塗料は劣化の状況に応じて、同じ材料で塗替えを行ってください。なお、塗替え工事は有償工事となります。

■ 取扱い

- ① 塗膜層の上を歩行する場合は、スパイク底など、塗膜層を損傷する履物で歩かないでください。
また、保護仕上げについて、以下の仕上げを設定しています。

標準仕上げ

塗料仕上げとなります。防滑性はないため、すべりやすく危険です。ご注意願います。

防滑仕上げ

防滑性を発現させるため、骨材入仕上材を使用します。

マンションや学校など歩行者が特定されている環境に適用します。

耐摩耗仕上げ

骨材入仕上材とゴムチップ入トップコートの複層により耐摩耗性のある仕上げとなります。

- ② 防水層の上に雪や水があるとすべりやすくなりますのでご注意ください。
特に標準仕上げは防滑性がないため、大変すべりやすく危険です。
- ③ 防水層にねじり、摩擦、強い衝撃が掛かるような運動(走りを伴う運動やゴルフなど)は避けてください。
- ④ 防水層を鋭利な物で傷付けたり、物を落としたり引きずったりしないでください。
雪降ろしや清掃する際、スコップなどの鋭利な道具の使用は避けてください。
- ⑤ 重量物、振動する物、鋭利な物を防水層の上に置かないでください。
防水層上に架台基礎などを設置する場合は、保護板を敷設してください。
- ⑥ 防水層にネジ、釘、アンカーなどを打設し穴を開けないでください。
- ⑦ 防水層の上に溶剤、薬品類をこぼしたり、流したりしないでください。
- ⑧ 防水層の上で火気を使用したり、タバコを投げ捨てたりしないでください。
- ⑨ 防水層の上で別途工事を行う場合は、防水層に損傷を与えないようにしてください。
- ⑩ 脱気筒が設置されている場合には、足元に十分注意し、躓かないようにしてください。
- ⑪ ペットを飼ったり、動物の糞尿を放置しないようにしてください。
- ⑫ 防水層は、中性洗剤以外の洗剤で洗浄しないでください。

全国アロンコート・アロンウォール防水工事業協同組合

■ 組合について

1971年(昭和46年)、東亜合成(株)が、アクリルゴムを世界で初めて建築用途の屋根用塗膜防水材ならびに外壁用塗膜防水材として開発し、上市しました。早くも翌々年には、「アロンコート会」が設立され、1981年(昭和56年)には建設省の許可を取得して、「全国アロンコート・アロンウォール防水工事業協同組合(略称:全アロン防水組合)」が設立されるに至りました。

この組合は、アロンコート・アロンウォールを使用して塗膜防水工事を行う全国の事業者で構成され、組合員の相互扶助の精神に基づいて必要な共同事業を行い、自主的な経済活動を促進することを主な目的としています。

技術委員会等で組合員の技術や知見の更なる向上を図り、アロン防水技能工やアロン調査診断・防水管理士等のプライベートルाइセンスを発行しています。また、塗膜防水材アロンコート・アロンウォールの宣伝、普及活動に努めています。

■ 組合の概要

名 称	全国アロンコート・アロンウォール防水工事業協同組合(略称:全アロン防水組合)
所 在 地	東京都港区西新橋 1-11-8 丸万 5 号館 3 階
設 立	1981年(昭和56年) 8月14日
許可番号	建設省東計振発第 359号
所 轄	国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課
会 員 数 (2024年11月)	251 社 防水工事業者: 224 社 販売代理店、アロン化成(株) および東亜合成(株): 27 社
電 話	03-3595-2331
F A X	03-3592-2816
Eメール	zen-aron@zen-aron.or.jp
U R L	http://www.zen-aron.or.jp



詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.zen-aron.or.jp>





販売部門



アロン化成株式会社

東日本支店	〒105-0003	東京都港区西新橋 2-8-6	TEL 03-3597-7342 (ダイヤルイン)
中日本支店	〒460-0003	名古屋市中区錦 1-4-6	TEL 052-209-8594 (ダイヤルイン)
西日本支店	〒530-0005	大阪市北区中之島 3-3-3	TEL 06-6446-6568 (ダイヤルイン)
福岡支店	〒810-0001	福岡市中央区天神 4-1-1	TEL 092-687-1415 (ダイヤルイン)
札幌営業所	〒060-0004	札幌市中央区北 4 条西 4-1-7	TEL 011-804-8614 (代表)

www.aronkasei.co.jp/



建材・土木グループ

☎ 0120-557-947 (フリーダイヤル)



- 本カタログ内のデータは実験値であり、保証値ではありません。
- 各使用材料を実際に調合および施工する場合には、使用者の責任において、当社発行の資料などに従ってください。
- 本カタログに記載の商品は、予告なしに仕様や取扱いを変更することがあります。